

始





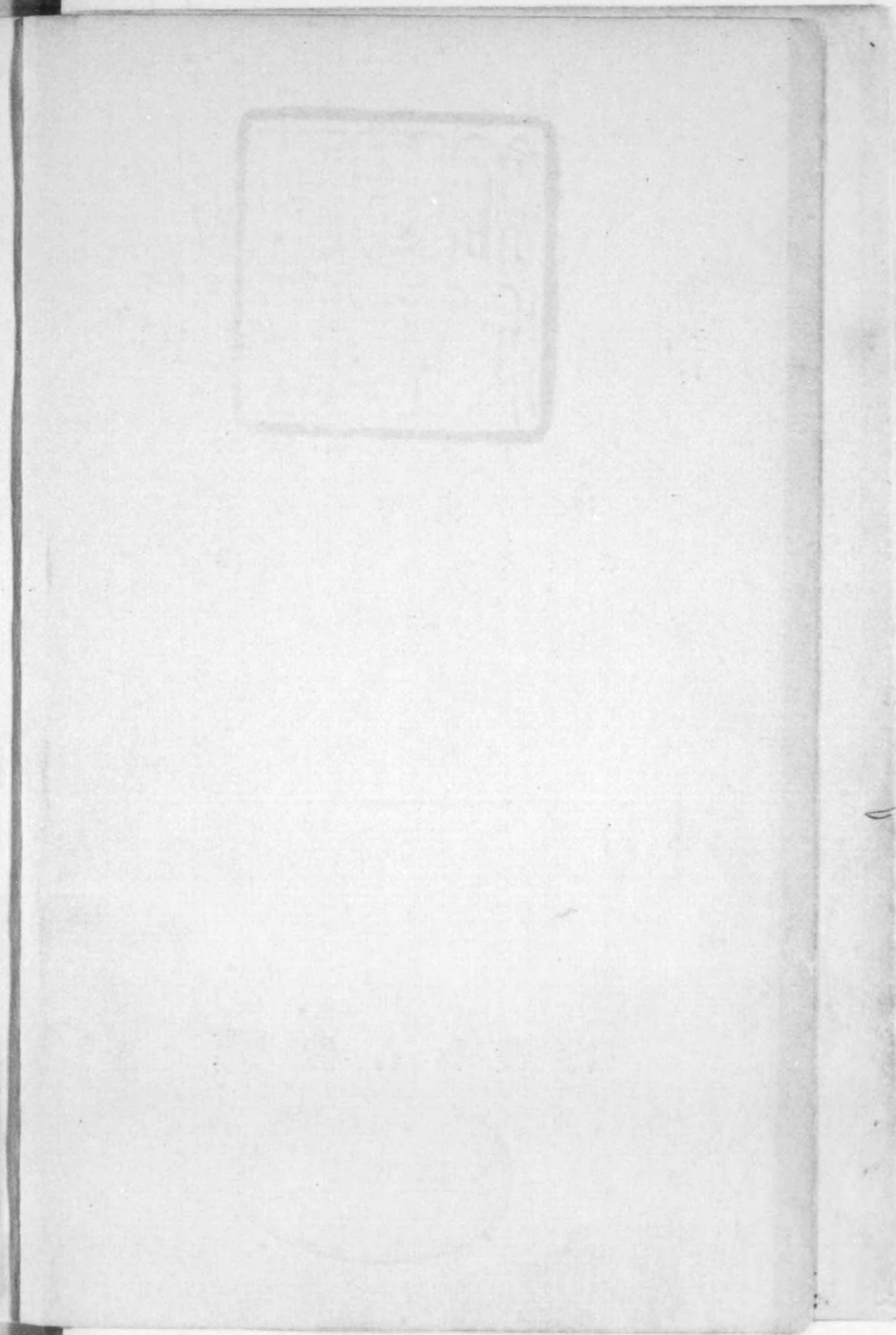
軍 隊 生 活 の 解 剖

大 庭 陸 軍 大 將 題 字
渡 邊 陸 軍 中 將 序
赤 松 陸 軍 步 兵 大 佐 著



財 團 法 人 偕 行 社 發 行

大 正
14. 6. 4
交 內



文武
不岐

大庭生

序

必任義務兵役制度を採用して居らぬ國家の軍隊は志願者又は傭兵より成立する關係から此等軍隊は戦闘警備を常職とする軍人の集團であつて其住所即兵營は此等特種任務を有する一部國民の城郭で一般國民と全然没交渉なのは當然である、我帝國の如く國民皆兵主義の國家に於ける軍隊は單に戦闘警備の任に服するばかりでなく平時に於ける他の任務は國防上必要なる戦時要員を絶えず養成

する爲國民の選拔者に軍事教育を施すのである即ち兵營は軍隊の駐屯所たると同時に國民の學校である、此見地から國民は軍隊及兵營に關して十分なる理解を必要とするのである、維新當初常備軍隊設置に當り歐風の模倣と封建制度の遺風から軍隊と一般社會と全然離隔し兵營は特種任務を有する一部國民の城郭として他の一般國民の覬覦を許さざる處と考へ國民は進で其實情を知らんとも欲しなかつたのである、今日に於ては國防は軍隊乃至軍人のみの負ふ所ではなく國民全員の負擔する處である位

のことは何人と雖も否む者はないのであるに拘らず尙且つ軍隊と一般社會としつくり合はぬのは從來の習慣の打破されないのも其一因であらうが「兵營」「軍隊」等と古來よりの呼稱を用ゐて居るからでなからうか近時の流行の様には兵營を國民軍事教育所とでも改めたら世俗に歡迎せられるかも知れぬ、こんな事は別として兎に角世人に軍隊生活の眞狀其教育の本義を能く知つて貰ふことは最大の急務である、近來各地で師範學校、中學校等の生徒が兵營に二三泊して兵卒の生活、軍隊教育の實際を目撃體

驗して歸校後に感想を書いたのを見ると世間一般が今尙ほ兵營及軍隊に關して大なる誤解を持つて居ることは争はれぬ事實である。數百萬の在郷軍人即一度兵營生活を體驗した國民を有する今日兵營の眞狀軍隊教育の本義が一般國民に理解されないのは除隊者が人間の通弊に捉はれ自己の勞苦を語るに誇大なる形容をなし或は故意に隊内の悪しき事のみを吹聴し世俗一般の感興を惹かんが爲にいろく針小棒大的に事實を誤傳するのではあるまいか。今迄時々見る軍隊内情に關する新聞記事或は著作も

亦概ね同様で其甚しきは極めて稀に發生した事物を常時存在する如く書き或は全く根據なき捏造の事すら傳へられてあるのに眞狀を記したる著述を見なかつたのも一つの大原因である。友人陸軍大佐赤松君昨年來國防思想普及宣傳の爲通俗的軍事叢書發刊の企あり其第一卷として「軍隊生活の解剖」の稿成るや携へ來つて予に序を問ふ此著や著者の多年研鑽にかゝる心理學上に立脚して嘗て體驗せる軍隊生活の眞狀及其精神教育上に於ける効果を釋明し以て軍隊に對する世人の誤解を正し他方軍隊に於け

る教育上の参考たらしめんとする著意は誠に時運に適したもので軍事に關する知識を得んとする一般人士の爲利益する所甚大なるを疑はない著者の苦心亦大なりと謂つべしである聊か所感を記して以て序となす

大正十四年一月

陸軍中將 渡邊 壽

自序

軍隊生活は青年の教育機關として、最も洗練せられたる理想的の制度であるに拘らず、今尙ほ一般青年の一大苦痛として誤解せられて居ると同時に、軍隊教育の當事者が、其機微なる教育の眞髓を解せずして、形式的に之を襲用し、其機能を發現し得ざるは返へす返へすも遺憾の次第である。之が運用を誤り或は徒らに之を苦痛とするは、要するに其意義のある處を解せざるが爲めに外ならぬ。

今や歐洲諸國民は大に覺醒し、此軍隊生活を一般青年に擴充せんが爲めに、少年斥候隊、少年遠足會等を組織し、或は軍事豫習教育を勵行して、國民の後繼者たるべき青年の體力氣力の増進を圖ると共に、協同生活を樂み、長上の指導に従順ならんとする美風を醗酵せんが爲めに、多大の經費と努力を惜まず、一面には國防の意義ある充實を完うせんとすると同時に、其國民の價値を高めんが爲めに、其最善を盡しつゝあるのだ。

即今我國に於ても、青年團等に於て漸次軍事豫備教育を行ひ或は諸學校に於て實施しある兵式教練を有意義のものたらしめんとする機運には向つて居るが、是は單に其在營期間を短縮せんとする動機に由るのみではない。予は遺憾ながら未だ此點に於て我國民の自覺を認め得ざるを深く憾とするものである。今や我國家の中堅たるべき各種階級の人々の後繼者たる青年の體力は急坂を下るの勢を以て低下しつつあることは、統計が明白々に立證して居る。又我一般青年を支配せる思想の其真相を剔抉したならば、恐らく何人も慄然たらざるを得ない。所謂不良少年は驚くべき數字を示して居るが、之を更に嚴密なる意義に於て討査したならば、其大半は或は之に屬するかも知れぬ。此際我國民が此點に於て覺醒する處がなかつたならば、我國運も殘念ながら是迄だ。

此憂ふべき大勢を挽回し、我國民の意氣を振起せしむる爲め、單に口舌に頼らんとするが如きは大なる見當違ひだ。予は歴史の命する處に従ひ次の斷案を得たり。曰く「之が爲めには國防の大彙を振翳して、舉國一致軍隊生活を擴充し、國民皆兵の實を擧げん

とするに如くものはない」と信するものである。我國維新以來幸に國運昇天の勢を示したの、支那、露國の強敵を挫へ、舉國「國防第一」の念を失はなかつた爲めだ、今や此等の諸國は其銳鋒を挫かれ、其強壓を受くるの憂減少したとは云へ、更に強大なる敵國は隱然其魔手を伸べんとして居る。若し我國民にして其假面に眩惑し、一朝其軍備と其精神の緊張とを緩めたならば、恐らく此金甌無缺の大日本帝國も、千載拭ふべからざる誨を貽すであらう。

却說此軍隊生活を擴充するは固より當面の急務だ。併し尙ほ更に直面せる急務は軍隊生活を解剖し、其教育的効果を檢討することである。予は此解剖に依りて三面の効果を豫期した。一は入營前の青年をして、喜んで軍隊生活を迎へんとすると同時に、他の一面に於ては、軍隊の當事者をして其運用に生命あらしめんとするものである。又更に他の一面に於ては、入營前の青少年の指導、教育をして、其要求の程度を誤らざらしめんとするにある。期待は餘りに過大だ、併し讀者にして若し虚心坦懷率直に著者の意のあ

る處を解せられたなら、聊か自得せらるる處あるべきを信するものである。

由來進取の氣象に富み、萬難を排して警らに自我を發揮せんとするは、青年に共通の特色だ。併し此邁進の意氣は動もすれば、他人の自由を蹂躪し、自己の反省を忘れ、無計畫の缺點を伴ふものだ。故に老成人と意見の衝突を來すは、蓋し當然の歸趨であらう。之を調節するが爲め近代の青年に取つては、宗教も聖賢の金言も最早其力を失つた。唯だ爰に残されたる唯一の手段は、實際彼等をして互に協同生活を遂げ、協同の目標に向つて、協同の成果を求めしむるに如くものはない。此協同生活の實施は自然に規律的生活の必要を自得せしめ、長者を尊敬し其命令を尊重するの念を生ずるものである。

青年諸君の心身中には、世人をして驚嘆せしむるに足るべき偉大なる潜在力を藏して居るのだ。之を發現せしむるには、其精神を緊張せしむることに依りてのみ、其目的を達することを得るのだ。此精神をして常に緊張せしむるには、協同の生活と協同の教育に依るに如くものはない。又其剛健なる體力と氣力は、其特に旺盛なる競争心の利用に

俟たねばならぬ。

姿勢、態度と服装は、社會的秩序の保護者たるのみならず、又自尊心の擁護者である。我國民にして之を輕視する者尠からざるは、國民的瑕瑾と云ふべきだ。責任尊重の念の薄きと、公衆衛生に無頓著なることも、亦其一失たるを失はぬ。此教育は協同生活に依り、其無頓著が靦面に不良なる結果を提示してこそ、其効果を見ることが出来るのだ。

忠君と愛國とは國民道德の基礎である。之とても大なる團結に於ける協同生活たるに過ぎぬ、併し小團體内に於ける協同心の涵養は、其教育の至當なる順序であるまい乎。此當然なる順序を無視して、果して眞の忠君愛國の眞情を涵養し得るであらう乎。

予は本書を草するに方り、我田引水の弊に陥らざらんことを慮り、軍人外の二、三氏に其批評を仰いだ、又友人三上正毅君は推敲の勞を取られ、特に田中大將閣下は本書に題し推獎の勞を惜まれざりしことに就ては、茲に深甚なる謝意を表するものである。

軍隊生活の解剖

目次

第一章	緒言	一
第二章	獨立、簡易、協同の生活	三
第三章	軍隊に於ける階級制度と命令の尊重	三
第四章	軍隊内の諸規定と規律的生活	三
第五章	精神の緊張と諸動作の迅速確實	三
第六章	剛健なる體力と意志の修養	三
第七章	忠君と愛國	三
第八章	協同動作と責任の尊重	三

第九章 姿勢態度と服装…………… 九

第十章 衛生思想の向上…………… 金

第十一章 結尾…………… 允

附録…………… 空

軍隊生活の解剖

陸軍大佐 赤松寛美



第一章 緒言

明治六年徴兵令を布かれ、國民皆兵の古制に復し、國防の大計を立てられて以來五十年、其間西南の役及び日清日露の兩役を経て、我國民の愛國心は大いに向上普及し、青年子弟も亦各々國防の義務あることを自覺するに至つた。併し我國民古來の生活は、大に軍隊の生活と懸隔せるが爲めに、兵營に對して今尙ほ別天地の感を懷き、無意義なる難行を課するものと信する者が尠くない。實際軍隊生活及び其教育の目的は、軍人精神の涵養を主眼とし、又教育學の理論のみを基礎とするものにあらずして、全く多年の經驗に依り漸次發達せるものなれば、戰爭の經驗なき者が、不可解の感を懷くは蓋し當

然であらう。併し學理上の見地より、仔細に検討するときは、何人も、経験の力の偉大なるに喫驚せざるを得ぬであらう。

併し軍隊教育の要求せる形式が何程合理的なるにもせよ、其教育當事者の多くは戦場の経験なく、假令之を有するとするも、眞に其一局一部の閱歷に過ぎざるが爲めに其形式の精神を解せず、徒らに其外觀に拘泥し、無意義なる要求を敢てするものも少からざるやうに思はる。本研究が此點に於ても、其指針となることを得ば、幸甚である。

軍隊生活及び其教育の要求する處は、云ふ迄もなく戦場に於ける必要を基礎とする。故に若し此方面より此問題を解かんと欲せば、経験なき者に於ては、恰も謎を説くが如く、困迷するの外はなからう。そこで我一般國民の生活を基準とし、軍隊生活は如何なる點に於て特色を有し、又其特色は軍人精神の涵養に、如何なる効果があるかを説かんと欲する。

第二章 獨立簡易協同の生活

我國の一般家庭は、全く合同生活であつて、被服は同じ箆筒に重ね込み、下著手拭などさへ共同して使用せるものが尠くない、況んや其他の雜品は廻り持を殆んど常態として居る在郷軍人などは既に軍隊教育を受けた者であるから、平常の生活に就ても聊か常人と異なる處がある筈であるが、それでも簡點呼等の爲めに出掛る際には却々大騒ぎを演せねばならないのだ。

咄嗟一令の下に出發の準備を整へて、迅速に整列を終ると云ふことは、戦場に於ける軍隊の須臾も忘れてならぬ要求であつて、平時に於て此心掛と習慣とを養成して置く必要がある。兵營生活に於て、常に各自の支給品は勿論、萬般の準備整頓を要求せらるる所以は、其本旨の此處に存することを見逃してはならぬ。

但し歐米列強の國民は、常に軍隊に於けるのみならず、其平常の生活に於ても、幼時よ

り其習慣を有し、狭いながらも各自に居室を有し、諸物品の整頓には最も意を注いで居るのだ。若し日本國民が將來他國民の尊敬を受け、優勝なる位置に立たんと欲せば、だらしなき從來の家庭生活は、是非とも改善するの必要がある。故に軍隊教育の衝に當るものは、更に此高邁なる理想を抱持し、其理想の實現に努力して貫はねばならぬ。

近頃識者の間に簡易生活の必要を唱道する者が尠くないが、實際中流以上の社會に於ては、二重三重の生活をやつて居るのだ。在來の日本服の外に洋服をも用ひねばならぬ、之れだけならばまだしも、之に伴ふ履物其他の附屬品も、各々其種類を異にせねばならない。況んや近來益々驕奢華美の惡風増長し、殆んど底止する處を知らない。昨秋の大震災は聊か我國民の反省を促すに足る筈であるが、之とてもほんの一部の者に對し、一時的の驚醒を與へたるに過ぎなかつた。近年我國の外國貿易が、著しく輸入超過の趨勢を示せるは、此間の消息を明かにするものだ。之が防遏の爲め政府の當局者が如何なる法規を以て之に臨むも、國民が自覺するにあらざれば、到底奏功の見込はなからう。然

るに即今の状態では、此自覺を喚起し得る見込も立たない。弛緩したる民心を作興せしめ、其自覺を促すには對外戰爭に如くものはないと云ふ者もある。併し對外戰爭は實に國家存立の岐るる處だ、國民奢侈の風を矯正せんが爲めに國力を賭するは考へものだ。扱何とか適當な方法はあるまい乎。

凡そ軍隊生活簡易なるものはない。一個の背囊と其携帶品は、其生活必需品の全部だ。行軍は則ち其引越を意味する。平時兵營内の生活は、衛生上の顧慮より多少は複雑であるが、夫れでも一般國民の生活とは比較にならぬ。毎年入營する壯丁は、全國民の一部ではあるが、せめて彼等だけでも簡易生活の必要を自覺し、歸郷の後も此習慣を保持し、之を一般に普及して貰ひたいものだ。時弊の矯正は之に依るの外はない。然るに軍服を脱するや、忽ち世間の惡潮に同化するものが多い。軍隊教育の當事者と其教育を受くる者とは、先づ此迄に於て、三思すべきである。

軍隊生活は、獨立、簡易生活のみならず又協同心を養成せんことを要求して居る。協

同動作は軍人精神の基礎であると同時に、國民教育の根幹でもある。故に此問題につき聊か其根本に溯り、諸者の了解を得んと欲する。

凡そ戦争に於て、勝敗の岐るる處は、克く協同動作の行はるるや否かにある。又軍隊指揮の要訣は部下をして克く協同動作せしむるにあるのだ。併し如何に其指揮が巧妙であつても、實戦場裡にあつては、平時の演習の如く周到なる指示を與へ得ることは、非凡な指揮官と雖も頗る困難だ。此缺陷を補ふ爲めには、各人の協同心より發する獨斷專行に俟つの外はない。故に上は一軍の司令官より、下一兵卒に至るまで、協同心に充たさるることが必要である。昔は指揮官に絶對盲従する軍隊を指して、軍紀ある軍隊と呼んだのであるが、現今に於ては、協同心を以て最大要件とするのである。故に營に教練及び演習に就てのみならず、兵營内の生活に於ても、常に之を要求せらるるのである。

民間の經濟戰に於ては、會社、工場若くは組合等の繁榮するは、要するに協同動作の克く行はるる結果であることは言ふ迄もない。今之を吾人の日常生活に於て

見んか。其材料は材木と紙及び火藥と硫黄より成つて居つて、此一片のマッチと雖も材木商、紙商、印刷業者、火藥商とマッチ製造業者との協同動作に依つて、出來上つたものだ、若し此等協同者の一たりとも、之を獨占して高利を貪らんか、假令マッチは出來上るも、市場の競争に破れざるを得ぬではないか。斯の如く其根本の精神に至りては、戦争と經濟、軍隊と社會とは共通せるものであつて、軍隊が國民學校であると云はるるのも、穴勝過當ではあるまい。

軍隊に就て如何なる形式を以て、協同動作が要求せられて居るかと云ふことを、諸君に向つて詳説するの必要はなからうか、併し此協同動作の原動力たる協同心の本質に就て、聊か卑見を陳述するの必要を感じる。

手取り早く云へば、協同心を促進すべき行爲を道徳と唱へるのだ。我國民にして忠節の心を失つたならば、國民的統一と協同力を失ひ、我大和民族は四分五裂し、支那印度の現狀を招來するの外はない。人間が、信義を失ひ約束を守らず、義理もわきまへな

つたならば、互に反撥して、協同心は全く破壊せらるるのであつて、協同動作など行はれよう筈がないではない乎。詰り協同心は諸徳の源泉であり、又人生最後の目標であることを知らねばならぬ。

吾人が社會に立つても信義を守らねば一日も立行かぬと云ふことは、説明する迄もない、況んや軍隊に於て共同生活を營むものが、此點に注意せなかつたならば、互に睦じく暮すことは到底出来ない。又軍人たるものが殊に忠節の志堅固ならざるべからざることは言を俟たない。而して「軍隊に上下の階級ある以上は禮儀の必要なることは勿論であるが併し我國の軍隊は餘りに極端である。斯く迄極端に走らずとも、秩序の保たれぬことはあるまい」と云ふ疑問は何人の心にも浮ぶを常とする。

凡そ上を敬ひ下を慈むと云ふことは、上下協同一致の基礎であり、精神教育の根幹であるが、之が説明に取掛る前に、予の實見談を試みよう。確か大正元年であつたか、予は水戸に著任し停車場より兵營に到る間、水戸の市街を通過した、處が市街の兩側に櫛比せる各商店の看板や、豆腐屋、經師屋などの表障子の看板が、悉く藤田東湖先生の筆法に、酷似せることを認めた。そこで予は水戸市民が東湖先生を崇拜することの極めて切なるものあるを直感した。

前掲の事實は抑も吾人に如何なる教訓を與へるものであらう？ 詰り長者に對して衷心尊敬して居るならば、不知不識其優秀なる人格に感化せらるるのみならず、其筆法迄が似て來るものであると云ふことを證據立てるものではあるまい乎。但し人は誰しも長所と共に短所を持つて居るものだ。そして此長所に著眼せなかつたならば尊敬の念は起るものではない。既に尊敬の念が起れば、其人の寫眞に對しても尙ほ不知不識の間、其長所美點が我心に感染するものだ。之れ則ち乃木大將の額面を掲げ、或は西郷の銅像を建立する所以である、但し其尊敬の念を缺く者に取つては、一の裝飾たるに終るのみだ。故に後進者を教化せんが爲めに、常に其尊敬を得んとするは必ずしも利己主義より發足したものではない。併しながら其尊敬を得教化の目的を達するには、高潔なる人格と

後進者に對する同情、竝に之を誘掖せんとする誠意が必須條件だ。凡そ人格高からずして他の尊敬を贏たんとするは、餘りに不合理の要求である。又此誠意の伴はざる教育は、刑罰と同様だ、如何に其説明を巧妙にするも、他が喜んで之を受けんとするにあらざれば、徒らに其苦痛を加へるのみだ。併し之は軍隊の當事者に對しては餘りに駄辯たるを失はぬ。如何に追及するも及ばざること尙ほ遠きの觀あるは實に此要求ではあるまい乎。諷つて一考するに何人も先輩を有すると同時に、又後進者を有たぬ者はない、我に於て果して此人格と此誠意があるであらう乎。諸君が手紙の冒頭に「皆々様御機嫌宜敷哉」とか、或は「恙なく御消光相成居候哉」などと書いたり、又結尾に「御健康を祈る」、などと書くには、則ち先方の家族打揃ふて恙なかれかし、御機嫌克かれかしと願ふ同情心から自然に發露した誠意である。勿論今ではほんの形式と化し、そんな同情心も何もなくして、單に形式を墨守して、無意味に斯んな文句を使用しては居るのでなからう乎。併し當初に於ては勿論此美はしき同情心の發露であつたのだ。又知人に遭遇した時に互

に交換する挨拶も、其精神亦同一であるが、漸次單純化せられて殆んど其意のある處を解するに苦むやうに變化したのだ。軍隊の舉手注目の敬禮も、其帽子を取らんとする意を寓するもので、歐米諸國民は殆んど一般的に、舉手注目之禮を交換するのである。捧銃の敬禮は反抗の意を有せない表象に過ぎぬ。

兎に角此等種々なる形式は、常に吾人を監視し其反省を促すものであるから、吾人は其形式に捉はれず、能く其精神のある處を理解し、己が精神を之に一致することを努めねばならぬ。換言すれば、吾人の敬禮は衷心の敬意を表するものたらざるべからず、吾人の挨拶は眞に衷心の發露たるを要する。吾人の拜賀は其誠意の表現でなければならぬ。吾人は聖賢の書を読み、上官の訓話に傾聴するは必要ではあるが、先づ此手近な方法を實行することは、理想の人となる捷徑であるまい乎。吾人は其形式墨守を非議するよりは寧ろ衷心より此形式に融合すべく努むべきであらう。

第三章 軍隊に於ける階級制度と命令の尊重

「今や自由平等の思想盛にして何れの社會に於ても此大勢に順應して、其制度を改革するに拘らず、軍隊のみ頑として舊慣を固守するは、抑々時勢を知らざるが爲めであらう乎。威壓的の軍紀は戰場に於ては、風前の燭にも等しいことは既に明瞭だ。然るに今尙ほ肩に正札を附し、僅かに一階級を異にするも、恰も主人と奴隸にも等しい、權力の差異を認めると云ふことは、時代錯誤ではあるまい乎。成程吾々青年が國家擁護の責任を有する以上は、軍事教育を受け國家有事の日、其責を全ふすることは當然の義務であり、又吾々も進んで此教育を受くることを希望するものであるが、軍隊の此階級の威壓は吾々の堪へ能はざる處である。」と云ふのが現代一般青年の思想であらう。故に此點に就て聊か説明を試みることにする。

戦争に就て大部隊の勝敗は、主として其決心と之を實行する計畫の良否に依つて決するものであるが、小部隊に於ては一瞬の視察に依りて敵情を判断し、迅速に處置を取つたものが多くは機先を制し勝利を得るものであつて、近く敵と遭遇した場合に於て殊に然りとする。故に軍隊の行動は寧ろ拙速を尙ぶのである。

軍隊の行動は斯の如く特殊の性質を有するものであるから、如何に現時の一般社會が衆議を尊重したとて、之を軍隊に輸入することは出来ないのだ。營に戦時に於て然るのみならず、平常の教育手段としても又此階級制度を保持するの必要があるのだ。但し今爰に謂ふ處の「平常の教育」とは、必ずしも直接の戦闘行爲を指すものにあらずして、萬般の實務に當り、能く之を果し得る識量を養成せしめんとするものである。軍隊教育の目標と其手段とは、世の所謂「教育」と趣を異にする所がある。

凡そ社會の實務に當り之を果さんとするには其前途に横はれる有ゆる障礙を豫防し、其精力を最も有利に發現するにある。彼の杜撰の計畫と評せらるるものは、將來必ず遭遇すべき障礙の豫想を有せず、之を豫防せんとする思慮を缺くのである。計畫の蹉跌、

事業の失敗は、人智の及ばざる原因に出づるものも尠くないが、少しく思慮あり経験ある者より觀れば、當然の失敗と見らるるものも亦尠くない。又一面より其失敗の跡を見れば、機に臨んで、斷行の勇を缺きたるに由るものもある。概して青年は盲斷猪突深思熟慮を缺くを通弊とし、中年以後思慮の周到となるに及んでは、邁進果斷の意氣を缺くに至るを常とす。爰に於て、軍隊に於ては從來「熟慮而果斷」を常に其標語として居る所以だ。

有ゆる學問は此豫察力を養ひ、其障礙に處する爲め、單に其基礎的知識を與ゆるに過ぎぬ。故に其實務に當らしむるには、更に其練習を積み其應用の識量を養成せねばならぬ。故に學校卒業者が直ちに其用を爲さざるは當然だ。軍隊に於ては教室に於ける教育を最少限度にし、實地實物に就て其識量を養成せんとするのである。

今之を鄙近なる銃劍術教育に就て見んか。抑と劍術の要訣は敵手に刺突せられず、又防拂せられずして充分に敵を刺突するにあり、敵より刺突を被らず又防拂せられざらんことのみを注意せば、自然に突進刺突の英氣を失ひ、刺突の氣盈つれば思慮の周到を缺くを常とす。故に其教育の要は其英氣を培養して、思慮を周到ならしむるにあり、其他軍隊に於ける日常の實務は勿論、極めて輕易なる雜務と雖も、其識量に應じて之を命じ其全力を盡して之を遂行せしめ、尙ほ絶へず之を監視して、其思慮の足らざるを補足せんとするものである。又各種の演習は實戰の模擬行動であつて、若し演習中必要なる指導教育を與ふるときは、實戰の情況と其氣分を失ふ懼があるから最初其識量に應じて任務を課し、各人の智能を傾けて自由に行動せしめ、演習終るや上官は講評を與へて、其思慮を進めんとするものである。若し夫れ軍隊の幹部にして、此機微なる教育の意義を解せず、部下にして又之を知らなかつたならば、此善美なる軍隊の教育制度も徒らに彼等の爲めに苦痛の足枷たるに終らんのみ。

要するに前章にも述べたやうに戰爭に勝利を得る唯一の要訣は、互に協同動作することであるが、此協同動作を爲すには、其目的を達成せんが爲めに、各々仕事を分擔して

全力を竭すにある。此目的を決定し、分擔を命ずるのは指揮官であつて、此命令に従つて部下は其分擔せる任務を實行し、爰に統一せる協同動作が行はれるのだ。戰場に於ては迅速なる決心と行動とが、常に戦勝の因を爲すものであるから、合議の制度は永久に採用される、見込はない。そこで軍隊に於ては階級制度の必要を生じたのである。のみならず平時の教育上より見るも、起居の間軍人精神と習慣とを養成せんが爲めに、此階級を保持するの必要があるのだ。

却説命令とは要するに各自の分擔すべき仕事を命ずることであり、此仕事を命じ之を果さすと云ふことが、軍人的能力を涵養する基礎的訓練であることは、前に既に述べた處であるが、軍隊生活の何物たるかを知らざるものは、動もすれば上官は恰も主人が下女下男を驅使するかのやうに、或はそれ以上に壓迫的に、其意の馳するが儘に、部下を驅使するものであるやうに、誤解せる者もあるやうだ。故に命令を與へるものが如何に苦心し、之を果させんが爲めに、注意を怠らないものであるかと云ふことに付、一言説

明するの必要がある。

凡そ命令を與へて、若し其命令が果されなかつたとしたならば、受命者が命令を誤解したか、或は其實行方法を誤つたか、若くは全力を竭さなかつたかに依るにあらざれば、下命者の命令の與へ方適當ならざりしに由るものである。抑々命令を與へるには、受命者の識量に應じ、例へば光を要する場合、甲には其判断の餘地を與へ、單に「光を持來れ」と命ずるも、乙には更に具體的に「提灯を持來れ」と命じ、丙には「提灯に火を點じて持來れ」と命せざるべからざることが尠くない。故に受命者にして誤解あらんか、詰り受命者に對する識量の判断を謬つたに由るものと云はねばならぬ。又受命者が其實行方法を誤り、或は之が實行を怠つたとしたならば、夫は下命者の指導と督勵を怠つた爲めにも依るのであるから、下命者は其責任を遁るる譯に行かぬ。然るに此反省力なく、責任を一に受命者に負さんとするものも決して稀ではない。斯る者に反省を促すは更に上官の責任であらねばならぬ。

命令を受くる者が、任務を全ふせんとするには、固より非常の努力を要することであり、之れがために其能力を向上することは勿論であるが、下命者の周到なる注意も亦自己を訓練する所以であつて、上下互に切磋琢磨するとは斯る機能を指すものである。されば軍隊には一見人力を浪費するように見ゆる點も尠くない。例へば聯隊本部と大隊中隊等の間に、軍用電話を架設したならば、雙方の傳令を省くことが出来るのであるが、これしきのこと何故氣付かぬであらう。かと思ふものもあるであらう。成程此人員を練兵に出場せしむることは、確かに考慮すべき一案である。併し斯の如き傳令教育を施して置くことも亦更に必要であると云ふ考慮の許に、實行して居るのだ。故に之を一般社會に適用し、教育上の意義を有せざる諸會社や官衙に於て多數の小使や給仕を使役すると同様に見做すは、誤りである。

命令なるものは、斯の如く教育上重大なる意義を有するのみならず、下命者も亦其教育上の効果を考慮して與ふるものなれば、受命者は、極力其遂行に努力せねばならぬ。

云ふ迄もなく其教育上の効果は、其全力を竭すことに依つて發揮せらるるのである。之れ實に軍隊に於て命令尊重の精神を向上せんに腐心する所以であつて、不眞面目の者に取つては、却つて反對の結果を齎らすものだ。

されば命令を受けたならば、假令些々たる仕事であつても、其目的のある處を考へ、迅速確實に之を實行すべきだ。之に依て有ゆる障礙を豫想して、之を豫防せんとする思慮と、熱心とを養ひ得るのであつて、此資質は營に軍人として最も必要なるのみならず、一般社會に於ても亦其成功に必須なる尊き性格である。之を以て全く自我を没却して、盲従を事とする卑屈の行爲なりと思惟するものあらば、實踐的教育の微妙なる機能を解せざるものと云はざるを得ない。

併し多くの命令中には、前後矛盾するものなきにあらず、此場合に於ては軍隊内務書は徐ろに其事由を申出べきことを示して居る。諸君は兩親其他の長上に對し斯の如き場合に於て、如何なる態度に出でて居る乎。此「徐ろに」の一語は實に千鈞の重さを有

するものであつて人間として當然起るべき反抗心及び不平の情を抑制するの意を寓するものである。之は軍隊に於ける最も大切な訓練であつて、絶対に之を強制するのである。彼の軍隊を以て壓制の府となす者は、多くは此理を解せざるに依るのである。此小著が此等の無理解より生ずる。意志の疎隔を一掃するに小補あらば、欣快とする處である。

尙ほ簡單なる命令は、單に其爲すべき仕事のみを示すを通常とするけれども、之を果す爲めに永き時間を要するものや、又は稍々複雑な命令には、其達せんとする目的と其分擔すべき仕事とを示すを例とする。但し何等の場合に於ても、其理由は一切示さない。詰り目的其ものが理由であるからだ。例へば「何村の敵情搜索の爲め」(目的)「斥候となり何村の敵情を搜索せよ」(任務)と命するのである。日常の命令も概ね之に準するのであつて、命令は常に其簡單を期し、受令者の判断力を消磨せざらしめんことを慮つて居るので。と云ふのは戰場に於て、餘りに懇切に過ぎたる命令は常に誤解の因を爲すから

だ。下命者が如何にも威張るかの如く云ふ者は、軍隊教育の眞意を解せぬからだ。

凡て命令は復唱、即ち受令者が再び反復するを例とするが、之は説明する迄もなく、誤解を避けんとする目的である。併し長き命令の復唱は時間を要するから簡單に要旨のみを復唱すれば足りるのだ。此復唱の必要は獨り軍隊のみならず。混雑せる店頭に於ても、其誤解を避けんがために自然に之を實行して居るようだ。此習慣は營に軍隊と、店頭に於けるのみならず必要に應じて如何なる場合にも應用したいものだ。

第四章 軍隊内の規定と規律的生活

初めて軍隊生活を経験する者は、其諸規定が餘りに煩瑣で、窮屈千萬に感ずるであらう。従来だらしなしい我儘な生活をして居つた者程、其感じは強いのだ。「斯く迄一舉一動規定攻めにせなくともよくはない乎。之が戦闘上必須の件であれば兎も角、戦闘力に何等の關係ない事を以て、我等を強制し、軍隊生活を厭はしむるの必要なからん」と思ふ

者も尠くなくからう。予も其一人であつた。併しそれは最初の二、三箇月のことであつて眞面目に之を實行して居る間には、自然に之を以て普通のことと感ずるに至るものだ。何となれば多数の同輩と、一室に起居し、和樂の中に共同生活を持続せんとせば、規定に従ひ、規律ある生活を營むことが、最も必要なることを感得するからである。

處が自由に外出を許されるようになり、我家に歸り又は飲食店に上り、疊の香を嗅ぎ寛濶なる日本服を見る時は、忽ちにして其纏が緩み、兵營の窮屈さを感じるに至るものである。

歐米諸國に於ける一般國民の生活は、極めて規律あるものであつて、兵營生活と變る處はないのである。故に其壯丁は和樂の中に物珍らしき、軍事訓練を受けるのであるから、其進歩も亦著しいのだ。斯く云はば或は予の言を以て、誇張に失するものとの、疑念を懷く者もあらう。予は此點には我國民の覺醒を促すの必要を感ずること既に久しく、又之を語るの機を得んことを希望して居つた次第であるから、談聊が岐路に亘るの

嫌はあるが、一席の辯を許されたい。

予は十數年前、僅かに二、三年間に過ぎないが、歐米社會の眞相を知らんが爲めに、各種の階級に屬せる家庭に同棲したことがある。或時は二、三家族が共同生活を爲せる實際を見たこともある。處が彼等は互に禮讓を守り、規律ある生活を營むが故に、常に和氣霽々として、不和を生ずるやうなことは毛頭ない、汽車電車の中は勿論、社會何れの部分に於ても、亦此調子を變へないのだ。予は外游中屢々我國民一般の生活状態を回顧して、前途尙遠なることを思ひ、轉た感慨に堪へざるものがあつた。成程我國の家庭生活の中にも、亦彼等に勝るの美點も尠くない、併し其家庭生活の規律に至つては、改善の餘地頗る多いものと確信して居る。予が在職中一意此信念を以て、我規律ある軍隊生活を、一般國民の間に普及することは、我國民生活改善の捷徑であり、又急務であると信じ、之が爲めに努力を惜まなかつたけれども、遺憾ながら予の意見に共鳴するもの極めて尠く、又假令ひ共鳴するものもあるも、已に家庭の人となれば、何時しか昔日の

志を失ふを例とす、予又自ら顧みて其一人にあらざるなきやを疑はざるを得ない。兎に角今や我軍隊に於ては、規律ある生活を全國劃一的に營ましめんが爲めに、軍隊内務書に於て規定せられてはあるが、元々此等の規定は明治四年歩兵内務書第一版として諸般の事項を定められたのを始とし其後四五年目に若干宛改正せられ明治二十一年始めて軍隊内務書として一般的のものとなり更に明治三十年第二版を頒布せられた此最後のものは内務の梗概を規定し其實施を細部に關して之を各隊に一任して居つたのであるから各隊毎に細部の規定を作つて其結果あまりに煩雜且つ拘束に失する様になつたので明治四十一年に更に大改正を行ひ各隊と共通的の事項を網羅して現行内務書の基礎が出来たもので一朝一夕に編み出されたものではない。併し各隊の間に多少の特別の事項があるもので其れは従前の通り各隊毎に已む事を得ざるもののみ規定することとなつたのである、斯う云ふ譯で元々此等の規定は、各隊に於て指導の必要上案出せられたものではあるが、若し假りに之を兵卒の自治に一任したとするも、恐らく永い年月の間には之と略

ぼ同様な規定を生み出したであらうと信ずる。併し此進化の経路を辿らずして、一足飛びに此規定中に投げ込まれる者が、堪へ難き強壓を感ずるは、蓋し人情の自然だ。要するに吾人が社會的訓練に於て、尙低級の程度にあるからだ。

予は嘗て米國紐育州イサカ市外にある、世界に於て有名なる一感化院を參觀した。院兒は十歳位より二十一、二歳の、不良少年、少女約百二、三十名を收容し、半日は勞働に従事させ、半日は學科を教へて居つて、院長の外に教師も數名あるが、院兒の監督は全然其自治に一任し、職員は全く之に干與せぬ制度を採つて居る。若し院兒の間に不都合の行爲をしたものがあつた場合には、相互の間に裁判長と判事、檢事及陪審官を選擧し、裁判を開廷し、其判決に従ひ處刑を執行するのだ。予が參觀の際は一名の院兒が、服罪して牢獄にあり、一名は之を監視中であつた。斯の如き兒戲に等しき手緩き手段が、果して不良少年少女の感化に効果があるであらう乎。若しありとせば何故であらう乎。抑々共存同榮の爲めには、お互の間に儼として法規の存するを必要とする。法規は之

を保護するの具であり、此精神を持して共に生きんとする者に取つては、法規は實に其保護者である。然るに不良少年少女は、此精神を欠くが爲めに、法規を以て徒らに彼等の自由を束縛する枷となし、之を蔑視するものである。故に彼等の此誤れる觀念を改造せしむる手段として、先づ彼等の自治に放任するのだ。又多くは仕事を以て、堪へ難き苦痛と感ずるものであるから、半日の労働を終るや、直ちに之に應ずる報酬を與へ、以て労働の必ずしも苦痛にあらざること知らしめんとするものである。

其感化院の成績は頗る良好だ。固より我國に於て收容せる院兒とは、其不良の程度に於て、大なる差等もあるのであらうが、其成績に至りては、到底我國の夫れに比すべくもない。

右に掲げたる一例は、諸君に對して聊か禮を失したものであると思はるるが、併し予は不良少年少女と諸君を比較し、感化院と軍隊とを同視せんとするものではない。ただ不良少年少女さへも共存同榮の心を持するならば、其窮屈なる諸規定は、彼等の保護者

であると云ふことを悟り、翻然として善良なる者と化するものであるから、況んや諸君をして自由自治の境遇にあらしめたならば、必らずや軍隊と同様なものを作し出せらるるであらうと云ふ事である。

凡そ文明の進むに従ひ、各人お互の生活は益々接近して來るのだ。其接近が密となるに従ひ、共存同榮の精神を忘れ、自利を主とする者は、自然に其圏外に排斥せられざるを得ない。海外に出稼せんとする、我國の労働者が到る處排斥せらるるのは、必らずしも之れが主要なる原因とは云ひ難きも、其協同生活に慣れざること一因に違ひない。若し我國民にして眞に共存同榮の精神に充たされ、他より敬愛せらるる資質を有するならば、恐らく世界の到る處に於て歓迎せらるるであらう。呉れぐれも忘れてならぬことは、此精神と此習慣を我國民に貫徹せしむることである。

軍隊に於て殆んど毎日耳にするものは、「軍紀」であつて、「軍紀」は軍隊の生命だといふが、抑々「軍紀」の正體は何であらう？ 煩瑣な説明は必要でない。一口に云へば命

令と規定を尊重することを云ふのだ。

前にも述べたように、規定を尊重し規律ある生活を送ることは、共存同榮の精神より出来たものであるが、其共存同榮の目的を達する、具體的方法如何。

規律的生活とは、要するに自己の身の廻りのこと及び其受持の仕事は他人を煩はさずして、自ら之を爲し、尙ほ其餘力を以て他人を補助することである。併し濫りに他を補助するときは、其人の獨立心を損する虞があるから、眞に其人が他人の補助なくして、爲し得ざる事柄に限るべきである。斯の如く他人に寄與し得る餘力を常に保持して、之を有効に使用せんと注意を怠らざる青年は、實に國家社會の生ける寶物である。青少年の精神教育及び修養の根本義は、實に此點に存する。彼の歐米に於て益々隆盛の勢を示して居る少年斥候隊の教育は、其着眼の基礎は實に此點に存するのだ、徒らに其外形を摸して、其精神のある所を知らざるものが、好結果を收め得ざるは固より當然だ。我國の教育は、外形に於ては略ぼ耻かしからぬ程度に整頓はしたが、扨其基礎たる此種の精

神に至つては、一向顧慮されて居らぬようだ。家庭や學校に於ては勿論、軍隊に於てすらも、此方面は兎角等閑に附せられて居るようだが、臆げながら其必要を認めて居るだけか、他の社會に比すれば、ましであると云へよう。

自分の身の廻りのことや、自分の受持の仕事を自らすると云ふことは、當然過ぎる程當然のことである、然るに到る處此精神は忘れられて居るようだ。彼の婢僕を使役せる家庭に於ては、子女に對する此精神教育は、破壊されつつあるのだ。生計に追はれて居る者は、自覺的ではないが偶然にも其兒童に對し大切の教育を施しつつあるのだ。彼の軍隊に於て「獨立」と云ふことを高唱し、又福澤先生が我國民に對し「獨立自尊」と云ふ標語を遺されたのは、此點に於て我國民を警醒するの必要を認めたからである。蓋し「獨立」とは他人は一切扶助せぬ、と云ふように反道徳的の意味でもなく、又他人との意志の疎通を無視する所謂孤立とは、全然其精神を異にして居るのだ。又協同主義や命令法規の尊重心と、相反するものではない。要するに常に其餘力を他に寄與せんとする精

神を持つると同時に、他人と協同せんが爲めに、命令規則を尊重するものである。議論が聊か枝葉に亘つたが此點に關し世間に往々誤解せる有識者あるを認められた故、茲に此辯ある所以だ。

次に一言を禁じ得ざることは、吾人の日常生活に於て、最も必要であり、殊に我國民に於て、其必要を痛感するのは、他人に迷惑を掛けない心掛である。予は我國到處各階級を通じて此心掛の極めて薄弱なることを痛切に感ずるものである。無識階級や成金者流の、傍者無人なる行動は云はずもがな相當有識階級に屬するものにおいて自己の富と位置とを以て、社會に於ける一種の特權と心得、彼等の所謂自由の行動を取り間接直接に他人に迷惑を掛けることを意としなさい。之を證するには多くの實例を擧示するまでもなく殆んど各階級を通じ各種の會合に於て、時間の嚴守せられざることを見れば、何人も之を否定することは出来ない。時間勵行の必要なることは、何人も熟知のこと故、今更詳論する必要もあるまいが、唯一つ愚痴を述べさしてもらひたい。今假りに

六十名のものが集會するとして、内一、二名の者が遅刻したるが爲めに、其開會が十分間延期されたりとせば、各人に取りては僅かに十分間の損害ではあるが、之を延時間とせば十時間の損害である。然も吾も人も之を以て、尋常茶飯事視するは、一箇の時代思想とでも云ふべきか。此間に立つては軍隊、鐵道、學校などは、恰も孤軍奮闘の爲體だ。此奮闘者が勝利の月桂冠を贏つは、果して幾年の後であらう？ 然るに誠に心許なきは其戰士の態度だ。學校や軍隊の中にある者が、其時間の嚴なるに苦悶し、之を一箇の苦役視するものさへ少くない。之を國民一般に普及せんとはせず、自から一日も早く低級なる社會的習慣に同化せんことを希ふて居る。誠に心細い話ではあるまい乎。

自分の身の廻りの事を自分に、處理すると云ふことは、詰り自分の爲に自分で働か自己の利便となるので之を對他的に云へば他人に迷惑を掛けない事となるのである軍隊に於ては此行爲の發露は自己の配給品の手入保存を細心注意して行ひ自分に當がはれたる場所に之を整頓して置くことに歸着する。併しそは單に規定に依りて要求せられ、上官

の検査があるが爲めか？ 諸君に對して、かくの如き問を發するは聊か失禮のようではあるが、軍隊中斯の如き誤つた考に陥らない者が幾人あらう乎。

要するに被服や諸物品を手入し、之を整頓するは、爾後の所要に應せんとする準備に過ぎない。演習歸營後如何に疲労困憊するも、先づ手入をせねばならぬものは武器だ。と云ふのは武器は軍人の最も尊重すべきものであつて、常に變に應じ得るの心掛を涵養せんが爲めの一教育手段だ。被服の汚損するに従ひ、直ちに之に修理洗濯を施すことを要求せらるるは、常に爾後の用に差支なからしめんが爲めのみ。箒、塵掃の雑具に至るまで、使用後は規定せられたる場所に、整置せしむるは餘りに形式に捉はれたるようであるが、他の者が之を使用するに方り、之を捜し廻る勞に比すれば、其手数は何でもあるまい。此等の形式は洵に些事には相違ないが之は單に教育手段であつて、其内面に潜める精神、即ち常に咄嗟の用に應せんとする準備の最も貴重なることを忘れてはならぬ。之は單に軍人のみに對する要求ではない。人間が此生存競争の劇甚なる社會に立つて、

落伍者たらざらんと欲せば、常住坐臥瞬時も此心掛を失つてはならぬ。併し是丈の説明では、尙ほ得心の行かぬ人があるかも知れぬから、少し諄いやうだが、聊か其理由を説述することとする。

諸君が學校、又は活社會に於て得られたる學問や知識は、眞に知識の斷片たるに過ぎないのだ。眞正の知識は自己、及び自己をして適應せしめんとする、社會と自然界の、將來を洞察し之に順應する能力である。或者は自然を征服することだなどと云ふが、之は全く誇大妄想の狂人の言だ。彼の聖賢、偉人と雖も、將來の事に對しては、極めて漠然と豫想するのみで、達觀などとは一片の臺詞に過ぎぬ。一寸先は暗で、其暗中を摸索するのが、人生の眞相である。賣卜者や觀相家が、出鱈目を並べて生活し得るのも之が爲めだ。併し知識を修得するに従がひ臚ろげながら其前途に、聊か光明を認めることが出来る。此光明を認め之に應ずる準備を有する者が、社會の優勝者となるのである。經濟上の成敗は勿論、有ゆる社會に於ける優勝劣敗の跡は、諸君の眼前に此法則を明示し

て居るではない乎。

處で多年學問に没頭しながら、將來に對する觀察力の頗る微弱なるものあると同時に學問の素養なくして其觀察を、誤らざる者もある。かくの如き差異を生ずるのは、要するに、努力すると否とに依つて決するのである。教育の要訣は現在及び過去の結果を見て、將來を推測し、之に順應せしむるにあり、予に頑童數名あり、試みに三歳の兒をして兩方に開放したる障子を閉ざさしむ。彼は先づ其一方を引いて之を他方に移すのみ、其一方の開放せるを知らず。更に五歳の兒に命ず、順次左右より引き寄せて閉鎖したるも、其一方中央を過りたるを以て、其後方向は空隙あることを知らず、更に七歳の頑童に命ず、始めて其所命を全ふせり。之れ其結果に對する觀察力の、年齢と共に差あることを證するものだ。成人と雖も此觀察力を缺けば、如何に高遠なる學問を修得し、學校の成績如何に優秀であつても、實際社會に處しては、劣敗たるの外ないのである。

故に青少年の爲めに其知識を開發せしむることは、勿論必要であるが、それと同時に

常に萬事に對し其結果に想到し、事後の所要に應ずる準備を怠らざる心掛を養成せねばならぬ。彼の汽車に乗らんが爲めに、停車場に馳せ付けたる乗客は、先づ其時計を見て次の發車時間を檢するは、何人も爲す處であるが之と同時に其所持の時計を規正し、更に下車時間迄も檢するものは、余り多く見ないようだ。一事が萬事とは此事だ。此等の心掛の如何を見て、人の價値を卜することは穴勝無稽ではない。

軍隊生活に於て諸物品の整備整頓を嚴密に要求し、だらしなき生活を許さぬのは、徒らに外形上の美觀を求むるにあらずして、實に教育上斯る意義を有つて居るのだ。併し目下我軍隊が果して其効果を充分に發現して居るや否やは、大なる疑問と云はざるを得ぬ。そは詰り軍隊教育の衝に當つて居る者も、亦之を受くる者も、此深長なる意義を解せぬからではなかるまい乎。

第五章 精神の緊張と諸動作の迅速確實

精神の緊張とは、爾後の所用に應せんとする精神的準備を云ふのだ。「右向け……」と云ふ號令で、精神は高潮して之に集中し、「右」と云ふ號令で、最高度に緊張するのである。然るに新入營兵の如きは、反對に左に向くものも随分尠くない。是位明瞭な號令を間違へると云ふのは、抑々何故であらう？ 之は詰り、精神が凝固して其活動力を失ふ乎。又は其注意が所用の點に集中せずして、散漫の状態にあるからである。が、云ふ迄もなく活動力を備へたる精神の緊張は、軍人として最も重大なる要素であつて軍隊教育を一貫せる要求である。蓋し死生の巷に立つて恐怖の念を壓伏し、其思慮を失はざるは精神の緊張と、平素に於ける其修養に依るからである。

軍人として健實なる志操を有すると云ふことは、勿論極めて必要なことではあるが、精神の緊張に堪へ、能く其思慮を失はざることとは、更に必要なる條件である。何となれば其志操如何に嘉すべきも、此素質を缺く者は、全く戦場の用に堪へないからである。故に國民にして既に此素質を有するに於ては、短日月の武技の練習に依りて、常勝の軍隊

たらしむることは決して難事ではない。

彼の簡閱點呼に於ては、豫後備兵役及び補充兵役にある者が、單に執行官の前に立つて、各自の氏名を申告するに止まるのであつて、別に死生の巷に出入する譯でもないが、衆人稠座の前であるが爲めに其精神緊張し、此緊張したる精神を駕御し得ずして、思慮を失したる行動を爲す者が尠くない。夫れでも豫後備兵に屬する者は、召集期間の短き輜重輸卒を除き、概ね其要領を得て居るが、軍隊生活を知らざる未教育補充兵に至りては異常の緊張を來し殆んど盡く執行官の諮問の言語さへ解せない狀況である。如何に軍隊教育を呪咀なす者と雖も、一たび此點呼場裡の成績を見たならば、如何に軍隊が無形上の貢献を爲しつつあるかを知るであらう。

軍人として、精神の緊張と其之に對し得る修養は必要であるが、常人に對しては其必要はないではない乎、と云ふ者も尠くないからと思ふから、之に對して一言の説明を試みることにする。

學生が教師の講義を聞き取り、之を記憶せんとするにさへ、絶えず其精神を緊張させて居らねばならぬ。況んや此油断のならぬ社會に於ては、對者の意見を聴くにしても、其胸中をも洞察もせねばならぬ。又其間之を反駁すべき我意見をも考へて置かねばならぬではない乎。店頭の小僧さへ顧客の風采、態度、言語、容貌等に依りて瞬間に其要求と其趣味とを察し、之に應ずる商品を呈出するだけの機智を要するではない乎。況んや今後の社會は、個人間の關係密となり、團體の威力を認めらるるに至るのであるから、衆人の前に立つて、其意見を吐露するの必要を生ずる場合が多いであらう。衆人の前に立つて、何等憶する處なく、其意見を發表するが爲めには、其精神の緊張に對し、思慮を亂さざるの修養を要するのだ。近來青年團等に於ても、恰も簡短點呼と略ぼ同一の方法に依り、青年點呼を施行せられて居るのが頗る多い。之は實に軍隊の豫備教育として必要なるのみならず、國民教育として又極めて必要なる訓練である。殊に國民皆兵の主義を標榜せる我國に於て、此種の教育に着眼せらるるに至りたることは、確かに一大進

歩たるを失はないと信するものである。

前に述べたる處に依り、常に精神の緊張を保持することと、又之が修養の必要なることに就て、讀者は聊か理解せられたらんと信する。却説然らば之が指導練磨の爲め軍隊は如何なる方法手段を採りつつありや？

凡そ環境程偉大なる教育者はない。吾人が人を教育するには、先づ環境を整へ、此環境の力を籍りて始めて、其効果を見ることが出来るのだ。之を所謂「指導」と云ふのだ。軍隊は即ち此等の教育の目的を達せんが爲めに、特別に形成せられたる環境である。此環境に入れば如何なる吞氣屋も、其環境の有ゆる刺戟に依り、最初は多少苦痛を感ずるけれども、いつとはなしに同化され、其苦痛を感ぜざるに至るものである。

彼の少年斥候隊なるものは、歐米諸國にありては、頗る盛況を示し、今や世界的の組織となつて居るが、日本に於ては其存在さへ疑はるる状態である。抑も此少年斥候隊は、軍事豫備教育を目的とするものにあらずして、全く現存する教育諸機關の缺陷を

補ひ、理想的青年を養成せんが爲めに設置せられたもので、夫れが爲めに少年に適する特別なる環境を作り、此環境の中において、自己に適する刺戟を勝手に撰擇せしめんとするにある。茲に聊か少年斥候隊の教育手段に就て、説述する積りであるが、其説明の便利のため、先づ「環境」に關し若干述ぶることとする。

社會と云ふ「環境」は甚だ複雑であつて、吾人に種々様々なる刺戟を與へる。其刺戟には無益なるものもあり。又有害なるものも尠くない。そこで其年齢と智識の發達に應じ有益にして而も能く咀嚼し得るもののみを、與へるの必要がある。之を家庭教育と云ひ學校教育と唱へて居るのだ。恰も幼兒をして玩具店の店頭に立たしむれば、其欲するもの頗る多く、其有害なると危険なると一向頓着なく、其選擇に迷ひ遂に駄々を捏ね、附添者を手古摺らすを常とする。故に兩親は其店頭を避け、其兒に適する物のみを買ひ與へるやうだ。

處が絶えず微妙な進化と變化を遂げつつある幼兒の嗜好に對し、正しく之に適應せしめ常に満足を與ふることは實際不可能であり折角買求め來つた玩具も幼兒の爲めに放擲せらるることあると同じく、學校に於て與ふる教材は、生徒の趣味に適應せず、之を強制せらるることは、彼等に取りて、一種の苦痛であることが尠くない。學校に於ける讀本の大半は此種に屬するものかも知れぬ。一般學校教育に共通せる缺點は、實に此點に存するのであつて、或は實物教育に依り或はダルトン教育法等種々なる手段が工風せられては居るが、之が解決を見ることは、前途極めて遼遠だ。

處で前にも述べたやうに、此複雑なる社會に於て、少年をして其刺戟を勝手に選擇せしむると云ふことは、恰も多額の小使錢を與へて、帝都の街頭に放ち、擲に歡樂を漁らしむると同様で、實に危険至極である。然るに此誘惑多き帝都に於ても、若し熱烈なる志望を有し、常に此志望を把持するものにおいて、自然に其環境に蝟集する諸種の刺戟を選擇し、他の方向に誘惑せんとするものを排し、自己の目的に添ふ處の刺戟に對してのみ興味を感ずるに至るものだ、のみならず其必要なる刺戟に對しては、極めて微細

なるものに對しても、驚くべき敏感を有するに至るのである。彼の高等學校入學の志望を有する學生が、書肆の店頭に於て、先づ注目にするものは、入學試験の準備に關するものであり、又彼の運轉手が機關の故障より發する音響に對し、驚くべき敏感を有するやうなものだ。要するに其刺戟の選擇を誤らざらしめんと欲せば、先づ適當なる環境を與へると同時に、熱心なる志望——但し其志望も少年の知識の發達と其性情に適應せる志望を懷かしむることである。

少年斥候隊の四大誓約は、次の通りだ。

- 一、敬神、愛國。
 - 二、國の誓約を守ること。
 - 三、常時人を扶助するの用意あること。
 - 四、心身を剛健に、常に精神を緊張し、正直を以て一貫すること。
- と云ふのが、其四大目標であつて、常に之を銘記せしむる爲め、彼等相互の擧手注目

の敬禮に於ても、中央の三指を以てするのである。

彼等をして、常に人を扶助するの用意と、心掛とを忘れざらしむるが爲めに、溺者に對する救助法や、溺死者に對する救急法、負傷者の繃帶法、幕營法、漕艇法、游泳法、手旗信號法等を練習せしめ、又自動車、自轉車、農業、大工、體操、養蜂、鍛冶、植物、動物、化學、料理、電氣、昆蟲等に關する簡單なる知識と技能とを要求し、各自好む處に従ひ自ら修得せしめ、本人の要求に従ひ之を試験し、合格者には修了を證する記事を與へ、之を袖に附着せしむ。斯の如き教育法を採用せるは、抑々何の爲めであらう？。讀者にして若し予の前に述べたる處を記憶せらるるならば、其理由を説明するの必要なからん。

常に其精神をして緊張せしむるが爲めには、種々なる方法を採用して居るが、其一方法としては、隊員をして各々市街の一端より分れ分れに市街を通過し、他の一端所命の地點に集合を命ず。隊員は市街通過の際、其街路に於て出會したる特異の事項は、盡く

記憶することを要求するのみならず、婦女老人等の誤つて其携帶品を路上に落したる者に對しては、直ちに之を拾つてやり、小兒の倒れたるものを起し、遺失物は成るべく本人を捜索して、之に返却し、若し本人不明なるときは、警察に届け、婦人小兒等の電車に乗るを扶助する等義侠的、社會奉仕的行動を爲したるときは、集合場に於て之を報告せしむるのである。斯の如き健氣なる志を懐ける少年に對し、世人の同情と感謝の念を持するのは當然ではなかるまい乎。之が歐米に於ける理想的典型的紳士養成の手段である。實に彼等の常に理想とせる處のものは、「生々した」青少年だ。(brilliant young man) 願はくば、我國青少年の間に、此理想を懐かしたるものだ。

談余りに岐路に走つたが、軍隊の教育法も亦少年斥候隊の教育に劣るものではない。但し其成績の如何に就ては、悲哉、予は此處に明言するの勇氣を持たない。之は要するに軍隊教育の當事者及び被教育者が其眞髓のある處を知らざるに依るものだ。依て左に聊か此點に關し説明を試むる積りである。

凡そ軍隊教育に於て一貫せる要求は諸動作の迅速確實である。言ふ迄もなく戰場に於ては、迅速と確實とを要すること極めて痛切なるが爲めに、其教育の重點を爰に置かるものである。そして此要求に合せんが爲めには、有ゆる注意を之に集中し、所謂眞劍味で行らねばならぬ。不眞面目の態度を以て事に當り、其失敗するに方りては、自然の成行となし、或は不可抗力に歸するのが、現代の通弊ではなからう乎。時に依つては急がば廻れ主義も好からう、併し此廻れ主義の十中八、九は、不眞面目に悪用されて居るやうだ。各方面に對し、其了解を得つつ行らねばならぬ仕事の外は、目的に向つて一直線に驀進すべきだ。殊に青少年教育は、此主義を以て其根柢を築くことが最も必要である。

軍隊に於て入隊後、先づ教育せらるる處のものは不動の姿勢である。此姿勢は身體こそ不動であれ、精神は最も緊張し、活動の準備にある態度である。故に其顔容には勇往邁進の活氣が洋溢して居らねばならない。眼を開け、口を嚙め、胸を開け、體重を前に

掛け、などの矯正は要するに此本旨より發したものに過ぎぬ。若し此態度が眞に各自の自覺より發したものであり、又我國民一般に此態度を持すやうになつたなら、我國民の前途は各種の方面に於て、更に一段の英氣を加へるであらうと信ずる。

又各種の教練の如きは、直接戦闘に必要なりや否やと云ふ見地より見たならば、改正すべきもの固より尠くない。之は當局者も氣付かざるにあらざるも、其精神訓練上の効果に至りては、其理論の根據は兎も角、經驗上偉大なるものあるを認め、實戰に於て直接必要なる動作に於て、之に代るべきものを求めんと苦心して居ると云ふのが、恐らく其本音であらう。兎に角其要求する諸動作は、極めて簡單であつて、小學校の兒童と雖も亦難しとせざる處のものではあるが、扱て之を迅速確實に實行することは、有髯の男子も却々難事だ。但し同輩の拙劣不器用さ加減は、失笑を禁じ得ないが、他人を鏡として我を顧みれば、我ながら我愚劣を耻ぢざるを得ないのだ。之れ即ち軍隊各個教練の教育に、偉大なる効果あることを證すると同時に、一般學校教育に缺陷あることを示すも

のではなからう乎。

前にも述べたやうに、總ての教練劍術等は各自をして其精神を緊張せしめ、此緊張の間において、精神の自由なる活動力を保持させんとするものであると同時に、理窟よりも先づ實行を要求するのだ。實行は總て學校卒業後に譲り、一にも二にも理窟を先にする學校教育の缺陷を癒すには、洵に缺くべからざる教育法ではあるまい乎。殊に實行を疎外したる教育は、空理空論に偏せしめ、彼の謂所非常識の人間を作出するに與つて力があるのである。恐らく現時の青年に對し、常識検査（予の常識とは通常の知識の意にあらず Common sense なり）を施行したならば、其大部分は落第請合なり。彼の健全なる常識は自ら思ひし、而して之を實行に試むることに依りてのみ得らるる賜物だ。僅かに一、二年の軍隊教育が、幸に我國青年共通の缺陷たる常識の缺乏を癒し、健全なる常識と英氣と思慮に富める國民たらしむることが出來たなら、他日具眼者より我軍隊教育に對し、溫き感謝の意を表せらるるの時期もあらう。予は軍隊教育の當事者が、短見

なる國民の冷淡なる態度に頓着せず、深き自信を以て、此高尚なる事業に従事せられんことを希望して已まぬと同時に、我一般國民も喜んで之を迎へ、漸次之を國民間に普及し、國民皆兵の實を擧げられんことを切望するものである。

第六章 剛健なる體力と意志の修養

古來の歴史を通覽すれば、何れの國に於ても泰平久しきに亘れば、文弱の弊に陥ることとは、全く型の如く一様である。之は詰り階級世襲の制度が採用せられるからではあるが、併し現代に於ても世界が全く統一せらるるか、又は平和主義者の夢想する如く、國際聯盟が絶對的効力を有つようになつたなら、文弱の弊は恐らく急坂を降る勢を示すであらう。一たび此勢を示したなら、奈落の底迄落行かねば止まぬことは、古今興亡の歴史が動かぬ證據だ。併し幸に斯の如く黄金時代は、近き將來に於ては到來する見込も無い然らば文弱の弊風を招徠するの虞はないであらう乎。

今日に至るまで、幸に我國運は何等の蹉跌なく殆んど順風に帆を擧げたるの觀がある、之が爲め兎角樂觀的傾向を有する我國民をして、彌々樂天的夢想病者たらしめた、斯の如きは實に人生不易の運命であつて、必らずしも周易の言に俟つ迄もないのだ。而して此樂天觀は人をして知らず識らず剛健なる氣力を喪失し、浮華文弱の弊に陥らしめるものである。今や其兆候蔽ふべからざるものがある。

讀者若し予の言に疑を挾まるるならば、統計に表はれたる、徵兵検査の成績を一見せられんことを望む。剛健なる意志は、剛健なる體軀に宿るとは、何人も異議を挾むことを許さぬ原則だ。實際遺傳的に虛弱なるものにあらざる以上は、意志剛健なれば體軀は自然意志の爲めに驅使せられ、漸次之に堪ゆるに至るものである。若し夫れ此原則にして果して、吾人を詐らざるものであつたなら、遺憾ながら之を一般に見て、現代の我青年諸君は、剛健なる意志を藏するものと云ふことが出来ぬ。

予は此缺點を以て、穴勝青年諸君のその責任とするものではない。社會も亦其責の一

半を負担すべきだ。第一は元來現代の物質的文明は、青年の教育に如何なる影響を及ぼすやは頓着せず、汽車、電車、自轉車、自動車等を提供して、歩行の利益を奪ふて居る。何！乗る者が悪い！とは恰も主人獨り山海の珍味に舌鼓を打ち小供等には茶漬を強ゆると同一徹だ。各種の誘惑機關は、意志未だ固まらざる青年に向て、遠慮會釋なく其毒牙を逞ふす、然も一面に於て剛健なる體力と意志とを要求す。餘りに矛盾ではあるまい乎。

其二は體軀の剛健なる者を徴兵に採用することだ。幸にして我國民は之を名譽として、進んで此義務を果さんことを希望するものが尠くない。此點に於ては實に世界に誇るに足る。併しながら近來他の一面には、固より無病長壽は希望する處であるが、内心徴兵検査に不合格となり得る程度に、其體軀の虛弱ならんことを、切望して居る者も又尠からざるようである。現時の制度に就て一考したならば、之はあり得べき弊風ではあるまい乎。斯の如き制度の下に、青年に向つて剛健なる體力と意志とを要求することも、

亦少し矛盾ではあるまい乎。

其三は社會の上流に立ち、青年憧憬の目標となつて居る人士の行動は、果して其位置に對する責任を全ふして居るであらう乎。彼等は美食を肆にして運動を無視して居る。宜なり、糖尿病や癌腫の爲めに犯さるる者多き、殊に營養量は其代價に比敵せざる、珍味を食ふことを一種の誇として居る者が尠くない。之は實に亡國的惡習だ。斯の如き國民が漸次其體力を喪失するに至るは、蓋し當然の運命であらねばならぬ。

青年諸君が斯の如き渦中にありて、其體力と意志の剛健を全ふせようと云ふことは、實際頗る難事中の難事と云はねばならぬ。故に此修養を全ふするが爲めには、軍隊と云ふ特別な環境に依るの外はない。實際此環境中にありては、富豪貴人の子弟と雖も、行軍中は其傍を往來せる汽車、自動車をも、勝手に利用することは出来ぬ。夜間の宴游も勝手にまかりならぬ。一定の食事の外には、酒保の飲食物に満足せねばならぬ。要するに軍隊の中にありては、門閥や富豪の背景は何等の力なく、同じ階級の間において、

絶對に平等である。又上級の者には其階級に相當する責任の重荷があり、自ら自制の束縛を受くるものであるが、兎に角其自制心の有無に拘らず、更に上官の監督は軍紀の外に逸することを許さず、又下級者に對し不良なる暗示を與へるような行動は、絶對に許されない。故に斯る純眞なる特別なる環境に在つて、剛健なる意志を鍛練し、剛健なる體力を養成し得ない者は、よく／＼其性情の拗げ者と云ふも過言ではあるまい。併し遺憾ながら其成績は、必らずしも豫期の通りではない。と云ふのは要するに軍隊教育の精神が教育者並に被教育者の胸裡に、徹底して居らぬ爲めではなかるまい乎。

併し冷靜に軍隊の實蹟を見るに、壯丁入營後三、四箇月の後には、毎年全般的に其體量著しく増加するのみならず、共同の成績を向上せんが爲め、利己的行動を排するに至ることは、顯著なる事實だ。予は在職中毎年暑中に於て施行せらるる耐暑行軍、又は特別に行はるる強行軍に於て、戰友互に扶助し、落伍せんとする者の背囊をも肩にせるものを見ること屢々であつた。云ふ迄もなく強壯なる者と雖も、斯の如き場合に於ては、

共に疲勞するのであるが、而も弱者の爲めに自己の勞苦を忍び、戰友を扶助せんとす、予は其健氣なる行動を見て、感涙を催はしたること屢々であつた。要するに事の大小はあるが此種の行動は、軍隊内に於ては珍らしくもないのだ。又在郷軍人の父兄等にして、軍隊教育を謳歌する者もあるが、之は穴勝諛詞のみではあるまいと信するのである。

軍隊は斯の如く苦樂を共にする者等が、其共同の成績を向上することに着眼せしめ、之に依つて其利己心を稀薄ならしめ、漸次其共同の目標を擴充し、遂に我國家我民族の爲めに、自己を犠牲にするの念を喚起せんとするものである。彼の先祖代々居住する處の村落の幸福さへも念頭にない者や、自己の在學せし學校の前途さへ、一向無頓着なるものが、一躍國家社會の前途を憂ふるが如きは、餘りに矛盾であり、又之が要求は餘りに突飛ではあるまい乎。併しながら即今到る處突飛なる要求を見るではない乎。

予は軍隊を以て完全無缺と云ふ者ではない。軍隊教育に對する批難は、動もすれば過度なる要求をすることと、個性を無視し體力の虛弱なる者も、將た強壯なる者に對して

も一率に過劇なる労働を要求することである。之は實に條理ある批難だ。併し之は當に軍隊のみならず、苟も合同教育を爲すものにありては、諸種の學校教育に於ても免れ難き缺點である。併し其各自の競争心を利用すると云ふことは、何程の教育を問はず最も必要な秘訣であつて、之を等閑に附しながら各自の胸中に潜在せる能力を發現せしめんとすることは、實際不可能である。殊に軍隊にありては、鐵石をも貫かんとする意志を涵養せんとするものであるから、甘つたるい方法を探つては全然其目的を達することが出来ぬ。軍隊教育の目的が既に此點にある以上は、此批難は永久に甘受せねばなるまい。唯だ願くは當事者の注意に依り、弱者に對し厚き同情を持し、同僚相互の扶助を奨励したならば、此弊を軽減するのみならず、却て友愛、協同の美風を養成するに至るであらう。又他の一面に於ては、入營前の未丁年者をして、其體力の練磨に怠らざらしむるの利も、又輕視すべからざるものである。

近來壯丁の豫習教育が、到る處實行せられることは、誠に國軍の爲めに慶賀すべきこと

とだ。が、之は眞に國防を念として起つたものであらう乎。勿論其動機に依る者は尠くなかるまい。併し其大部は入隊後の苦痛を軽減せんとするより、起つたものではあるまい乎。又近來諸種の學校に於て、軍事研究勃興し、或は乘馬演習射擊演習等も盛んに行はるるやうであるが、之も亦入營後の負擔を聊か軽減せんとする動機に依るものではあるまい乎。併し其動機の如何は兎も角、斯の如き美風を生ずるに至りたるは、體力虛弱なる者の入隊後に嘗むる處の、苦痛の反響ではあるまい乎。

兎に角剛健なる意志と體力とは、軍人としての基礎的要素であるから、其最も檢知し易き體力の檢定に依り、徵兵選擇の手段としては居るのであるが、體軀強壯なるが故に此血税を拂はねばならぬと云ふことは、現代社會に於て最も不公平なる制度であつて、此不公平は間接に國民の體力を低下せしめつつあるのだ。併し體力虛弱なる者は、假令召集するも軍隊の厄介者である以上は、此不合理なる徵兵制度を變改することは出来ぬ。予は此不合理を癒する爲め、軍人を好遇せよとは云はぬ、何となれば斯の如きは、

兎角軍人をして、好遇特権者の如き念を起さしむる虞あるからだ。又徴兵免除税を徴收せよとも云はぬ、何となれば如何なる高率を以てしても、此等血税に比敵せしむることとは出来ぬからである。

要するに此不合理を癒すの手段は、全國民が國防の義務あることを自覺するにある。併し此精神的要求は、戰爭中及び其前後に於てのみ、發現するものであつて、之を遠ざかるに従ひ漸次其影を失ひ、甚だしきに至つては、軍人に對し、不運なる當選者として憐愍の眼を以て見るに至るのだ。現に輕浮なる一部の國民は、かくの如き態度を取つて居る。即今我國に於ける、最も憂ふべき一たるを失はぬ。

爰に更めて國民皆兵の必要を説き、國防の義務を述べたるは、贅言たるを失はぬ。唯だ如何なる手段に依りて、之を保持させるかと云ふことが問題だ。人は多く其精神の必要を説き、其形式を蔑視するが、消散し易き精神に固定性を附するには、形式の力を藉らねばならぬ。成程形式も或歲月を経過すれば、藻拔の殻となるの虞はあるが、精神は煙

の如く尙更油断はならぬ、要するに此點より見て、全國民が其國防の義務あることを自覺して居るならば、絶へず各階級と各年齢を通じて、國軍の最も要求する剛健なる意志と體力とを涵養せんとする意志となつて發現せねばならぬ。そして夫れが團體的に行はるれば更に妙である。

右の形式即ち手段として、予の腹案を提示するに先ち、此剛健なる意志と體力とは、國軍の最も大切なる要素であると同時に、我大和民族の將來に對し、又最も必要なるものである所以を陳べよう。恐らく讀者は此前提を見て、予の弄筆と見らるる者が尠からざることと信するのであるが、予は之を吐き出さざれば腹の膨れる程度でなく、寧ろ腹痛を感じるからだ。

過般米國の或學者は、エスキモーを以て日本人の祖先だと云ふ意見を發表した。讀者の已に知らるる如く、エスキモー民族は北極地方に居住し世界に於ける最も倭小なる民族だ。兎に角其面貌骨格は、最も日本人に酷似して居ることは確かに事實だ。我大和民族

は其氣魂に於ては兎に角、殘念ながら其體格に於て、世界に於てエスキモー族を除き、最も矮小なる民族であつて、世界到る處常に仰いで人に面接せねばならぬことは、外遊の經驗ある者の等しく殘念に思ふ處である。又世界オリンピック競技に於て、毎年殆んど比較にならぬ慘敗を繰り返しつつあることは、お互に殘念至極だ。

我大和民族の祖先が、エスキモー民族であつた乎、否かに拘らず、有史以來の我民族は現時の如き體格の貧弱なるものでなかつたことは、其使用せし武器、器具等に依りて判斷することが出来る。併し徳川三百年の泰平は、此剛壯なる體格を低下せしめた。近來徵兵検査の結果は、全國壯丁の身長は若干伸長せるの觀はあるが、之は正座するの習慣漸次廢止せられんとする結果、其脚部の伸長を來したのみで、必らずしも體格上の進歩ではないことは、甲種合格者の年々減少することに依りて明瞭だ。兎に角此體格上の低下は、一面剛健なる意志をも喪失しつつあるの證左であつて、我民族の將來に關する重大の問題である。

此體格低下の原因は、種々様々であるが、其主なるものは社會一般に淫靡の風盛んにして、青年が性的早熟となり、其體格の發達を中止するに依るものである。

此點につき、若し讀者にして予に其論證を要求せらるるなれば、幾らも之を提示するの用意を有つては居るが、常識的觀察も亦之に一致するものであるから、管々しい論證を避けよう。兎に角近來智識階級に屬する者にして戀愛至上主義を唱道し、公然風俗を壞亂するの行動を敢てし、新人を以て自ら任ずる者輩出する。之は由來性に關する道徳が、民族の將來の發達に關して發生したものである、と云ふことを知らないからだ。吾人の不遠慮なる行爲が、民族の將來に偉大なる關係を有することに想到したならば、吾人が之を慎むは當然のことではなかるまい乎。兎に角現代青年の體力の減退に就ては、壯年者も亦其一部の責任を負はねばなるまい。

併し以上述べたる處のものは、單に消極的に青年の性的早熟を豫防せようといふに過ぎない。吾人は尙ほ積極的に之を増進することに努めなければ、此極度に低下したる體

力に満足することは出来ぬ。之は實に我民族としての義務であり、又國防上の義務である。之を怠る者は非國民であると云うても過言ではあるまい。その義務心は如何なる形式に於て、如何なる程度に之を實行すべき乎。

却説戦時に於ける歩兵一人の負擔量は、凡そ七、八貫匁に上る、そして此重荷を背負うて一日十里、數日間行軍を連續して、尙ほ戦闘し得るの餘力を存すれば、概ね好からう。併し軍隊教育を受けざる一般國民に之を要求することはチト過量の觀がある、併しながら壯年者としては少なくとも、徒手一日數里の行程を、數日間連續し得るを標準とし、或は團體を以てし、或は單獨に汽車電車等を捨てて、時々徒歩旅行を實行するのは、一般國民の義務だ、と予は信ずるものである。國民にして若し國防の義務を自覺せるならば、階級の如何を問はず、一率に此徒歩旅行を時々實施したいものだ。

第七章 忠君と愛國

忠君愛國は新人に取つては最も陳腐な問題であつて、彼等に對しては、却て反感を招くことさへあるが、併し其觀察點を異にする毎に、最も新しき問題たることを感ずるのである。

吾人は固より他國又は他國民に對する敵愾心を以て、愛國心の本質と認むるものにあらず又他國に歸化するもの、又は友邦の爲めに努力する者を以て、愛國心なきものとは認めず、往時にありては、政府當局者さへ誤りたる愛國心の下に、國民に對し指導及び干渉を敢てしたこともあつたのだ。併し恐らく現代に於ては斯る思想は、丁髷と等しく頗る珍なものであらう。

特別なる場合、即ち交戦状態に入りたる時、敵國に對し敵愾心を發揮するは、固より愛國心の發露に外ならないが、平時に於ける愛國心は、如何なる形式に於て發現すべきや、恐らく之に對して明答を與へ得る者はなからう。彼の不穩の舉動を敢てする一部の社會主義者さへ、我國家我社會を思ふの餘に出でたるものが尠くない。愛國心は必ら

すしも、口に愛國を唱導する者の、獨占物ではないのだ。要するに現代の社會は複雑を極め、其愛國的行動を實現する爲めには、該博なる知識と公平なる立場とを以てせざれば、其適正を得ること極めて困難だ。爰に於て吾人は識者、先輩の言に聽従するの必要を生ずるのだ。併し世の識者と雖も、國家社會の諸問題、殊に吾人が現代に處して取るべき、人生の指針に就ては、容易に適正なる判断を下し得るものにあらず、蓋し假令判断の資料を得ることは出来るとしても、人は名利の外に全然超脱することは、殆んど絶對に不可能なるが爲めだ。假令識者と雖も此劇烈なる生存競争場裡に立てる以上は、一身上の利害得喪を、先入主となれる感情に依り、其適正なる判断を誤るのが常だ。成程各々傾聽に値する理由はある。併し其理由たるや其主張の弱點を覆ひ、之を潤色せんとするに過ぎないものが多い。

一天萬乘にして、吾人の生活を超越せる我君主の大御心は、吾人に取つて最高の指針であつて有ゆる理由を超越して神聖である。吾人は此大御心を尊重し之を最高の準繩

として、其行動を決定すべきだ。我國土は狭少、國力は實際二、三等國の位置にあるに拘らず、一等國の班に列するに到りたるは、我國民が此大御心を尊重し、國民的統一を失はなかつた結果であつて、將來我國運の消長も亦一に此點に係るものあることを忘れてはならぬ。

予十四、五年前米國にあるの日、一日グリフヒス氏の招待を受けた。氏は維新前より永く日本にありて、最も能く日本を解し、常に其著述に依りて、歐米の諸國民に對し日本を紹介しつつある人だ。予は氏に對し「將來若し日本の國運が傾くことありとせば、其原因は何でせう？」と問ふたのだ。氏は呻吟稍々久うして、「假りに日本にして將來左様な不幸な事ありとせば、國內に於ける閥、黨派等の爲めに、内に互に闘ぐことであらう。」と答へられた。爾來十有五年世運の變遷を見るに、争鬭の弊は漸く甚だしく、或はグリフヒス氏の直言をして、實現せしむるのではないかと思はれることが多い。抑も氏は如何なる根據に基いて、斯の如き判断を下したのであらう乎、爾來十餘年此疑問は

予の頭を悩ませた。

我國民道德の基礎を感ずると云ふ迄にある。忠孝も亦此基礎より發し、佛敎道德の基礎も亦三恩に歸着する。我國に於ては忘恩は悖徳の甚だしきものと見て居るが、歐米人は此點に就ては、極めて淡泊である。されば國際間に就ては、忘恩を以て其非を責るも彼等に取つては何等の理由を爲さないのだ。兎に角此道德及び宗教は、我國獨特の國民性を陶冶した。尊ろ我特殊の國民性が、此道德を生み出したと云ふ方が適當かも知れぬ。

凡そ各國の歴史を通觀するに、其表面の理由は兎に角、其國民は、常に自己の利害得失に依りて其去就を決して居る。然るに我國の歴史に於ては恩義の爲めに、其利害得失を顧みないのが常である。之が我國の歴史を一貫せる精神であつて、吾人が史を讀んで鼓舞策勵せらるるも之がために外ならぬ。然し我國の將來に對し、一抹の暗影を投ずるものも亦此中に存する。故に明治十五年明治天皇が、軍人に下し賜はつた勅諭に、「古よ

り或は小節の信義を立てんとて、大綱の順逆を誤り、或は公道の理非に踏迷ひて、私情の信義を守り、あたら英雄豪傑どもが、禍に遭ひ身を滅し、屍の上の汚名を後世まで遺せること、其例尠からぬものを。」と仰せ賜へり。即ち此小節の信義や私情の信義の爲めに絆され、意固地となつて、同僚の間に閥を作り黨を爲し、互に相闘ぐことあらんことを憂慮せられたるに依るものと拜察す。我國現代社會を仔細に洞察すれば、病將に膏肓に入らんとするものあるを見るのだ。

我國民性の半面には、此の如き欠點はあるが、此欠點を補はんが爲めに、自然に、皇室に對する忠誠の念が發達したものと思はれる。萬世一系の我歴史は即ち其結果であつて、我の誇りとする所以實に爰に存する。(國民性と制度並に風俗習慣との關係は、他日卷を異にして學理的に論究せんとす)。

歐米諸國は我國と其制度を異にせるが、而も能く國運の發展せるものも尠くない。併しそは全く我國と其國民性を異にして居るのだ。我國民の間には其懷抱せる思想を異に

するも、只だ一事の共通せるは皇室に對して尊崇の念を失はないことで、其大御心に對して七千萬人等しく、服従するならば、國運の消長は免かれむとするも、萬世に亘り其國礎を危うすることは斷じてない。故に予は此意義に於て、愛國と忠君とは一致するものであると云ふのだ。

又孝とは詰り、父母の意志を尊重すると云ふことに歸着する。されば其根本の精神に就ては、忠孝と亦相一致するものである。

軍隊が天皇に對する忠誠の念を必要とすることは、歴史の證明する處だ。歴史を繙く迄もなく、支那の現狀は遺憾なく之を證明して居る。

日露戰爭に於て、各軍の司令官より奉呈せる報告の冒頭には、等しく「陛下の御稜威に依り云々」とあるを見て、他國民は之を無意義なる形式と思つた。我國民の中にすら或は之と同一の見解を懷いた者もあつたであらう。併し我將卒が上官の命令に對し、水火尙ほ辭せざるは、畏多くも陛下の命なることを信するからである。予は戰場に於て、

部下將卒の勇敢なる行動を見て、つくづく御稜威の偉大なるに感激したのだ。或は之を以て愛國心に基くものとせん。然り、夫れも固より其一要素であらう。されど歐洲大戰に於ける獨逸皇帝の威信失落したる後の獨逸軍と、露西亞皇帝の凋落したる後の露軍の狀況を見たならば、皇室尊崇の念が、軍隊に取りて如何に重要なかを了解し得るであらう。併し軍隊が俄仕立に、之を鼓吹したればとて根柢ある成果を收め得ることは、到底見込のない話であつて、家庭及び學校の力に俟たねばならぬ。詰り軍隊に於ける忠君愛國に關する教育は、單に其仕上げに止まるものであるから、若し其基礎の教育が、不眞面目のものであつたならば、却て其不眞面目の念を増長するの結果を來すに過ぎない。

軍隊に於ては三大節及び其他の機會に於て、嚴肅なる儀式に依り、御眞影又は軍旗に對し、禮拜せしむると同時に、敬虔なる忠君愛國の念を喚起せんが爲めに、之に關する精神講話を行ふのであるが、其教育を受くる者は種々様々にして、其教育程度を異にす

るのみならず、各々其境遇異なるが爲めに、其信念を喚起することは、頗る困難なる事業と云はねばならぬ。特に不眞面目なる輩は、之を以て單に形式に捉はれたるものと見て、心竊かに其愚を嗤ふ者もあるかも知れぬ。此等の諸君に對し一言海外に於ける予の實見を語ることは、穴勝無駄骨折ではあるまい。

蒸暑い夏の夕暮であつた、青草の敷つめられた米國某大學の校庭に數百名の男女や小供が、彼處此處に集ひながら大學生數名の合唱に耳を傾けて居つた。最後に校歌を合唱するや、一齊に立上り、脱帽して、不動の姿勢を取つたのを見て、予は最初其何の故たるを知らず、聊か面喰つた。之は説明する迄もなく、校歌に對して敬意を表したのだ。況んや國歌や國旗に對して、最も嚴肅なる敬意を表することは、小兒や下等労働者に至るまで、眞に徹底したものだ。斯の如きは獨り米國のみならず、歐洲諸國に於ても全然同一の状態である。兎に角極端に自由を尊重する米國でさへ此通りだ。誇るべき國體と光輝ある永き歴史を有する我日本國民は、御眞影に對し軍旗及び國歌國旗等に對し、嘗

に軍人學生のみならず、下劣なる生活を爲す者に至るまで、嚴肅なる敬意を拂はしめたものである。併し勿論此形式は、其精神の發露たらしめねばならぬ。

第八章 協同動作と責任の尊重

産業教育其他有ゆる社會の事業は、凡て協同動作の發現ならざるはないのであつて、戦争は其特に顯著なるものである。故に若し彼我の素質が同一であつたならば、其協同動作に就て勝れるものが、勝利の榮冠を贏つたのだ。軍政教育とは要するに、其必要なる能力を最大限度に、發揮せしめんとするものであり、戦術とか戰略とか云ふものは、此各種の能力を協同的に動作せしめんとするに過ぎぬ。依て根本的に之が論究を試みるの必要を感じる。

所謂分業とは一業務を完成するが爲めに、其業務を細分し、各々其一部分を分擔することなので、統一とは即ち分離せる各種の業務を統制協同せしむることである。協同動

作は其能率を高め、其成績を向上せしむる爲めに、最も効力あるものであり、社會の進歩するに従ひ、其傾向は益々盛んになり、之に反するものは、劣敗する外はないのである。此協同動作は大別すれば二種ある。一は歩兵騎兵等の如く或は漕艇の如く各人同一の業務を實行し、そして合同の成績を得んとするものと、一はベースボール又は火銃大砲機關銃の操縦の如く、各人各異の業務を分擔し、以て綜合的成績を得んとするものとある。共に合同の成績を擧げ、其能率を高むるの効力はあるが、又次の如き通弊は免れない處であるから、之が運用に方りては、深甚の注意監督を要する。

一、業務分擔の配當は、各人の識量と趣味とを斟酌し、之に適應せしめなかつたならば其効果を破壊するものだ。併し適材をして適處を得せしむることは、何人も能く爲し得る處であつて、又何人も能くし能はざる處だ。蓋し何人も自ら區處其當を得たりと信するも、他人より之を觀れば適處を得ざる者尠からざるを發見するを常とするからである。若し夫れ其區處當を得ざるものあれば、實に其能率を阻碍するのみならず。反感、

不平其間に起り、其極まる處遂に破壊を招徠するに至るものだ。在來各國の歴史に汚點を印せる革命の多くは、要するに之が爲めに依るのである。局限されたる些細な業務は其弊の及ぶ處唯だ狭少なるのみであつて、其素質に至つては、又異なる處のものはないのである。唯だ指導監督の位置にある者の、好意の觸接に依りて其匿れたる能力を發現せしめんとする注意と、一視同仁、公平無私の溫情が、僅かに其不平と其爆發とを避け得るのみである。

二、其分擔業務が細分せらるるに従ひ、全局に對する注意と研究を怠る弊を生じ、其智能は器械化せんとするものだ。故に若し其一部に故障を生ずるときは、忽ち其能率の低下は免れない。會社や官衙に就て、或者が事故缺勤したるが爲めに、其全體の業務が停止せられることは稀でない。軍隊に就ては突然缺員を生ずることは、最も有り得べきことであるから、教育上の見地より、常に交代して之に當らしめて居る。例へば砲手と馭者、或は教練と事務等努めて交代せしめては居るが、併し之れでは其能率を阻碍す

ること著しい。要は一定の範囲内に於て、互に交代練習せしむるの外はない。

三、其分擔せる業務が狭少なる範圍に局限せらるるが故に、無趣味を感じ、嫌厭の情を起し易い、従つて動もすれば責任觀念を失ふ者が尠くない。殊に其責任の限界が明瞭でなかつた爲めに、不良なる結果を齎したる場合にありては、相互の間反感の因を爲すものである。故に指導監督の位置にある者は、能く責任の限界を明瞭にすると同時に、常に各人の責任觀念を向上せしむることに注意せねばならぬ。彼の日露戦争の日本海々戦に於て東郷大將が、「皇國の興廢此一舉にあり、各員能く其責を盡せよ」との訓示を與へられたる本旨、又各人の責任觀念を喚起せんとしたるに外ならず。

此協同動作は其業務の規模大なるに従ひ、之が計畫に任ずる者は、老熟せる經驗と、周到なる注意とを要するものであつて、其間若し遺漏缺陷あらんか、不測の混亂を來すものである。軍隊に於ける動員計畫なるものは、戦時一令の下に、出征の準備を整へるものであつて、現役兵及び召集する豫後備兵に、遺漏なく武器、被服、裝具糧食等を支

給すると云ふことは、極めて複雑なる協同動作を要するのであつて、恐らく如何なる社會に於ても、其計畫の周到なる點に於て之に勝るものはあるまい。著者在職中屢々其計畫に參與し、二回其實施の衝に當り、其一系亂れず整然として、着々此大規模の協同動作が實施せらるるを見て、覺えず會心の笑を漏らした。固より動員計畫は軍事機密に屬するを以て遺憾ながら茲に其要領を語るの自由を有せないが、諸會社、諸官衙及び個人の企業に於ても、此點に於て學ぶ所があつたなら、我國民の通弊とせられて居る、計畫粗漏の譏を免れるであらう。

軍隊に於ける諸種の演習は、戰場に於て敵と遭遇したる場合を假想し、其必要の時機と場所に於て、各人の戰鬥能力を最大限度に發揮せしむる爲め、適當なる協同動作をさせようとするのだ。之が爲めに指揮官は時機を逸せず適切に部下に其分擔業務を命じ、部下は一意其責任を全ふせんことに努力して、爰に始めて一系亂れざる協同動作を實現するのである。併し部下も亦絶へず其同僚と協同を保持するの心掛なかるべからず、但

し其協同は消極的に同僚の行動に追隨するにあらずして、常に積極的行動に依りて、之を促進するの意氣を要することは勿論だ。要するに平時演習の目的は、殆んど其勝敗を度外視して、其指揮官の決心と區處が適切に實施せらるるや、部下は此區處に従ひ適當に協同動作が行はれるや否やを練習し、又之を檢閲するのである。演習に従事するものは勿論、之を見るものも亦此本旨のある處を逸してはならぬ。

斯の如く軍隊の勝敗は、主として協同動作の如何に依つて岐るるものであるが故に、軍隊に於ける諸種の競技は、常に團體的成績の比較に依りて、其勝敗を決する方法を採用せられて居る。今や諸學校並に青年團等の競技會に於ても、漸次同一の方法を採用する傾向を來したけれども、尙ほ此見地より改善の余地尠からざるものあるを遺憾とする。

以上述べたる處に依り、協同動作は軍隊の勝敗を決する主因であると同時に、社會の生存競争場裡に於ても、亦其勝敗の主因を爲すものであることは、聊か讀者の了解を得たることと信ずる。併し理屈は兎に角、之を實現するには、第一協同動作を樂むの情趣

を持たねばならぬ。そこで之を遊戲や競技に於て涵養するの必要を生ずるのだ。第二には各々其責任を尊重するの念を要する。責任觀念薄弱にして、勞苦は之を他人に譲り、逸樂は自ら求めんとする連中の寄合では、如何に協同の利益を知るも、到底實績の擧がる見込はない。近來各種の組合や團體が組織せらるることは殆んど一種の流行の觀がある。併し奈れも振はざることも亦事實である。其不振の原因は皆一のようだ。即ち責任觀念の缺乏に依るものではあるまい乎。識者も聊か此缺陷のある處を見て、殉職の鐵道踏切番人や、訓導を大に社會に推奨はして居るが、元來責任觀念は吾人の有ゆる生活の基礎を爲して居るものであつて、一、二の挺で容易に持上るものではない。現代我國の各社會に共通せる病根は、自個の責任を尊重し、自己の使命の重きを知らざることである。即ち其責任と人格とを尊重せざることだ。

人格とは人類としての責任の自覺を云ふものである。又人格尊重とは各々其智徳を啓發し、國家社會に貢獻せんとする志を尊重することを云ふのだ。假令貧賤にして其取る

處の職は極めて低くとも、若し其者にして之に依つて、國家社會に貢獻せんとする志あらば、吾人は此志に對しては、最大の敬意を拂はねばならぬ、之は福澤先生の唱道せられたる自尊と、異名同意義であらうと信する。併し自ら尊重することも必要ではあるが、他人の此志を尊重することが、更に大切である。彼の幼狗の古草履を嬉々として弄ぶのも仲間が之を欲するからだ。兒童の喜ぶ玩具は、決して價の高きに依るにあらず、其仲間が之を羨むからだ。頑童の悪戯を誠むるはいいが、同時に、自ら「賢い兒」であると云ふ自信を懐かしめる必要がある。堂々たる男子も其人情に於ては、之と異なる處はない。有ゆる犯罪の動機は、種々様々であらうが、何れも落行く先は自暴自棄だ。抑々他人の尊敬を得ようと云ふ意思を有することは可なり、併し他人の自尊心を奪つて、之を得んとするは、精神的強盜とも謂つべきで、舊幕時代庶民に土下座を要求したのは、此類ではあるまい乎。此大正の聖代に於ても、お互の間にさへ、之に類したものはないであらう乎。

と云ふたなら、讀者は直ちに軍隊に於て、上官が兵卒の氏名を呼捨てにすることを、咎めるであらう。之は吾人の家庭に於て敬稱を省くが如く、元々親密の衷情を表はすは一は命令の尊嚴を保ちたいと云ふ、意より出でたものであつて、已むを得ざる點はあるが、下級幹部が、之を亂用するは誠むべきことだ。

人格尊重と云ふことに就ては、我軍隊に於て將校の間には、稍々其自覺を認めて居ようだ、特に士官候補生に對しては、其人格の尊重は殆んど遺憾なく、實現せられて居り、又一年志願兵に對しても、其曙光を認むるも、一般下士卒間にありては遺憾ながら未だ殆んど了解せられて居らぬようだ今や當事者も此點に就て、改善の必要を認めざるにあらざるも、其實施に就ては、各人の自覺心の發達と相俟つて、之と相並行せしめんとして時機を俟つて居るのである。

國家社會に貢獻するには、其位置高く又資産あれば、其及ぼす範圍は廣いのであるが、必らずしも深く且つ永久性を有するものとは云へぬ。精神上の貢獻に至りて殊に然りと

す。貧困なるものは、生活の壓迫の爲めに、他人の驅使に甘んせねばならないが、併し其國家社會に致す貢獻に至つては必らずしも使用主に劣るものではない。往々にして、彼等の中に國寶もあるのだ。然も自ら其國寶たることを知らざるものが多い。嘗て十數年前予が渡米の際、横濱を出帆するに方り、數名の職工が船内汽鐘の修理に従事して居つた。機關長聲を潜めて、「本船汽鐘の極めて重要な部分破損し、之を修理するには、船渠に入れ數萬圓の費用を要するのであるが、目下就業中の職工は、殆んど天才的技能を有し、僅かに數十圓の修理費を以て、短時日の間に修理するのだ、實に彼は國寶であるのだが、自ら國寶たることを御存知ないのだ」と云へり。又予が歐洲よりの歸途、船中一貿易商あり、日本の美術製品を海外に販賣する者なり、彼は昂然として「予が海外に此製品を販賣するが爲めに、幾多の職工は其生を全ふることが出来るのだ」と語つた。予は之に答へて、「予の歐米の視察に依れば、何と云ふても日本の美術製品は、世界に冠たるものだ。實に我國の此等職工は國寶だ、併し貴君は未だ國寶としては前途遠い

ようだ」と談笑したことがあつた。實際斯る世間より顧みられざる大小の國寶は、到處隨分尠くない。又此國家社會を思ふの志は、此大小國寶の種子であつて、人類である以上は、何人も此貴重なる種子を有つて居るのだ。須らく社會の上流に立つ者は、此種子を尊重し、其接養に力むべきではあるまい乎。之を所謂人格尊重と云ふのだ。處で實際に到る處此希望は裏切られ、殆んど手の着けようもなき爲體だ。我國民の前途も實に遠と云ふべし矣。

第九章 姿勢態度と服裝

軍隊の要求する姿勢態度は、要するに伸び伸びした外形と、緊張したる精神の發露を要求するものである。併し其緊張したる精神は、其必要に應じ最少限に迸出せしめんことを要求するものであつて、一言一行も忽にせず、言語は簡單明瞭、動作は迅速確實なることを要求するのだ。彼の颯爽たる美姿と云ふ形容詞は其状態に最もよく適合するも

のであらう。

此の姿勢態度は歐米諸國に於ては、常に軍人のみならず、實に一般國民の理想であつて、幼童や労働者に至るまで、其心懸を有て居る。そは其生存競争劇甚なるが爲めに、自然に養成せられたものでもあり、又服装が自ら此要求に導いたのであらう。故に彼等に軍服を着用せしむれば、其姿勢態度は全然軍人であるのだ。然るに我國に於ては、永き徳川幕府の厭制政治の結果、戰國時代に一般の氣風となつて居つた此颯爽たる英姿は危険人物の表徴と見做され、殆んど根柢より破壊せられた、今後之が恢復には幾百年を要するであらう？ そは兎も角今や此姿勢態度は我一般國民のものであらねばならぬに拘らず、一種の軍隊式と唱へ、嘲笑の具となることも見受けるのだ。之れでは其恢復は殆んど見當がつかない譯だ。

之が恢復の爲めに軍隊のみ如何に努力した處で、一般國民の心情に變化を來さざる以上は、軍隊を去るや否や元の空阿彌となつて仕舞ふのだ。故に先決問題は、一般國民の體格美に關する趣味を喚起し、彼等をして姿勢態度に關する理解を得せしむるにある。

我國の學校及び軍隊に於ける體操は、全く強制的に施行せられ、本人の希望に依るにあらず、故に退學と同時に又顧みられない現狀である。之れでは健全なる體格を作らんとする目的の達せらるる見込は到底ない、今の處此體操は殆んど徒勞の狀態にある。之は要するに體格美に對する趣味を有たないからだ。予は外遊中一日倫敦の市中を散歩しけるに店頭に多人數の黒山の如く蝟集せるを見、何事ならんかと人波を推し分け、近いて之を見れば豈計らんや。店頭の窓硝子の中において、一青年が體操器具廣告の爲め、見事に發達せる半身を露はし、體操を實施しつつあるに過ぎなかつた。蓋し一舉一動毎に腕と肩の上に躍動する力瘤を見んとするのである。

又歐米の婦人は、女性の裸體塑像に對して深き興味と觀察眼を有し、青年男子は男性の裸體塑像の前に立つて、低徊去る能はざるものあるは、要するに體格と姿勢の美に對し深き趣味と理解を有するからだ。然るに我國に於ては毎年開會せらるる帝展等に於て

見るに、青年男子が女性の裸體塑像の前に立つて、恰も其理解と趣味深きを誇るが如き觀あり、美術品も斯の如く逆用せられては、警視廳を苛立たせるも又當然だ。

歐米の諸學校に於ては、體操は學生の自發的に施行せらるるものであつて、其設備も亦完備して居る。然るに尙ほ一般市民の爲め、市中に多數の體操練習場あり。斯の如く體操が自發的に青年の間に行はるる所以は、要するに體格姿勢の美に對し、深甚なる趣味を有するからだ。妙齡婦人も亦諸種の運動を試むるのみならず、起床前後に體操を實行するものも頗る多いのだ。我國に於ても近來青年の間に、諸種の遊戯や競技が流行するに至つたことは、誠に慶賀すべきことではあるが、之は其一部の書に限られ、一般國民は全く興り知らざる状態だ。日本に於ては社會人心の指導は、残念ながら官憲の力に俟たねばならぬ。國家の將來のため、政府の當局者が此點に於て國民を指導せられんことを望むと同時に、國民も亦此點に注意せられんことを望まざるを得ない。

前にも述べた如く、軍隊の要求する姿勢態度は、元氣の中に溢れんことで、此鬱勃た

る元氣を發現するには、噪急に失せず、徒勞なく必要の最少限を消費するに止めねばならぬ。かくすれば自然に動作は活潑確實で、言語は簡單明瞭となるのだ。此本旨に合する姿勢態度が即ち男性美の極致なのである。何人も衆人稠座の前に於ては、特に指示せざるも各々此姿勢と態度を取らんと力めて居るようだ、されば此姿勢態度が男性美であると云ふことは、何人も自然に自覺して居るように思はれる。

云ふ迄もなく何人も、常に其精神を緊張して居ることは必要であつて、殊に青年に於て然りとする。併し精神の緊張を保持することは決して氣樂ではない。姿勢態度並に服裝の端正なることを以て、重要な禮儀作法となすは要するに之が爲めである。

禮儀は斯の如き目的を以て起り、吾人の我儘や自墮落を防止するものであり、吾人の社會をして其理想に導かんとするものである。さりとして之は決して天來の法律でもなく、又神より賜はつた規則でもない、全く吾人の心理に潜める理想の「我」である。

抑々此「我」には自己を中心として觀察する「我」と、國家社會の將來と云ふことを

中心として觀察する「我」と二種ある。之を古來の學者は「小我」「大我」などと唱へ、謎でも説くような説明をして居るが、早い話が、吾人が日常の生活に於て、兎角我家庭に於ては自己を中心として、自然我儘勝手な振舞に出で勝であるが、扱賓客に接するときは、多數の人に接する場合には、全く別人の觀を呈するものだ。謂はば吾人は凡て二重人格者だ、之を「小我」「大我」と呼ぶ迄のことだ。そして詰り此「小我」を「大我」に接近せしめた者を、有徳の人と呼ぶに過ぎぬ。

禮儀とはお互に此「大我」の持寄をやるのである。併し之は誠に結構な持寄であるからお互に之を崩さぬようにしたいものだ。若し社會的位置の高き者や、衆人の尊敬を受ける者が、此崩壞の率先者であつたなら、尙更其効果が著しいとしたならば、此等の者は更に其責任が重い譯だ。詰り斯様な譯で姿勢態度や服装の端正を持することは、禮儀と認むるようになったのだ。お互に社會機能の靈妙さに驚くではない乎。……諸君！予が餘りに岐路に入つたことを咎むる勿れ、現代の諸君は斯る根本より説き來らざれば

容易に首肯しないからである。

第十章 衛生思想の向上

軍隊が國民の衛生思想の向上に、貢獻する所の小ならざること疑を容るるの餘地がない。戦争と衛生とは最も重大の關係があるからである。日清日露の戦争は勿論、如何なる國の戦争に於ても、鐵火の爲めに斃れたる者よりも、疾病の爲めに命を殞したる者の數は、遙かに多數に上つて居るのであつて、衛生思想の幼稚なる軍隊程其損害は著しいのである。又深き決心を懷き遠征の途に上りたる以上は、名譽ある戦死を遂ぐるは固より覺悟の前ではあるが、病魔に犯され、徒らに異郷の空に命を殞すは、實に忍び得ざる處だ。

元來一地に永く居住するときは、其地方に繁殖せる病菌に對し、自然に免疫性となるか、或は少くとも其病菌に對する抵抗力は、大に増加するものである。然るに交通頻繁

となるに従ひ、更に新種の病菌を輸入するが爲めに、其猛威を逞ふせらるるのである。近年我國の死亡率が漸次増加しつつあるは、種々なる原因に依るものではあらうが、其主因は要するに衛生思想の幼稚なるに由るものだ。況んや外征の爲めに、風土氣候を異にし、風雨に暴露する戦士が衛生思想を缺くときは、病魔に犯され易きは自然の數であらう。

故に平時に於て軍人の衛生思想を向上し、之を嚴に實行せしむると云ふことは、軍事教育として最も大切なる其一課目である。又父兄の爲めには、最も大切なる子弟であり、陛下の赤子である軍人をして、兵營に於て共同の生活を營まして居る以上、流行病の豫防に對し有ゆる手段を盡すは、當事者に取りて重大の責任である。

彼の日曜祭日等に方り、外出する軍人が布片を以て鼻口を蔽ひ、肩に水筒をかくるは、斯る顧慮に出づるのである。我國は到る處清涼の井水を得ること容易なるがために、生水を飲用するの習慣があるが、海外の諸國にありては、生水の飲用は最も危険であるか

ら、外征の場合を顧慮し、水質の善惡に拘らず、斷然生水の飲用を嚴禁せる諸隊が多い。渴した場合或は「水質検査の結果、良水たることを保證せられたるものをも禁止するは、餘りに無理解ではない乎」と云ふ者もあらう。併し多數を統制するには、例外を許すことは、不可能なのである。如何に非常識でも無意義に多數の部下を苦めるものは居ないと信じてよからう。

軍隊に於て往々赤布の小片を附したる手拭、襦袢、劍術道具、及び赤色の洗面器を見るであらう。之はトラホーム患者であり、其器具は同患者の使用するものであることを示すのだ。又下痢患者は特に定められたる便所がある。赤痢、腸チブス等の患者を營内に發生したる場合は、其消毒は随分大袈裟で、徹底的に實施せられ、室の入口では靴底を消毒し、便所の手洗水は昇永水に變へられる。

軍隊が衛生の爲め多くの時間と金錢を費やし、大騒を演ずるは衛生以外の利益をも收め得ると信するからだ。そは之に依りて、公共心、協同心、及び徳義心を養成すること

が出来るのである。防疫の爲めには多數協同するを要し、我の保有せる病菌を他に傳染せしめては相濟まぬ」と云ふ徳義心を喚起することも出来るのである。

軍隊の食事の不味粗悪なるを難する者がある。何分短時間に調理することは、戦時の要求に對する演習であるから、日本料理の特色とする、眼に依りてする美味に就ては、全然顧みられて居らない。又味附の如きも極めて大ざつばだ。併し、營養量とカロリーに就ては、充分の研究を遂げられ、營養に不足なきやう充分な給養をせられて居るから此點に就ては何人も安心して好からう。

吾人は必らずしも軍隊調理法を、一般家庭に適用することを勧誘するものではないが、我國民に向つて彼の營養量とカロリーを無視し、高價を拂つて唯だ徒らに珍味を漁ることだけは、中止することを忠告せんとするものである。由來我國民は菓子の爲めに最も贅澤なる國民だ。恐らく世界に於ける有ゆる良菓は、日本に於て求むること容易であらう。又我國在來のものに至つては、其美觀を誇らんが爲めに、其贅を盡せるものも尠な

くないようだ。かくて年々菓子之爲めに約五億萬圓を消費して居る。それも我國民の約八割を占むる農民は、其需用者にあらざして、之を消費するものは國民の一少部分なのである。予は必ずしも絶對に菓手に營養價なしとは云はぬ。併し其代價に相當するだけの効能あるや否やは疑問と云はざるを得ぬ。又下級労働者の間にありては、其家族に極度の粗食を爲さしめつつ、自から晩酌を傾くるものも少くない。

斯の如く日々の食物を以て、能力氣力の源泉たらしむることは等閑に附し、徒らに味覺を喜ばせんとし、或は美味を貪食して適度の運動を怠る國民は、漸次其死亡率を増加し、能力益々低下するのは、蓋し當然ではあるまい乎。

第十一章 結尾

之を要するに國家有事の日、身を以て君國に許す戦士たらしめんとする教育は、平時に於て、國家社會の爲めに欠くべからざる良民の教育と、相背馳するものではない。軍

隊は實に良兵良民の教育を以て、其最高の目標として居るのだ。併し其成績に至つては其希望に添はざることも尠くない。と云ふのは詰り、教育當事者も、又之が教育を受くる者も、俱に軍隊教育及其生活の精神のある處を解せざる者ありて、雙方共に器械的に盲動して居るがためではあるまい乎。人類は蟻や蜂と異り、其自覺を無視しては、到底完全なる協同生活を營み、其機關の運用を圓滑ならしむることは出来ないのだ。前諸章に述べたる處は、諸君の自覺を喚起せんとするの微意に外ならぬ。歐洲戦後英國首相ロイド・ジョージは世界列國が一率に徵兵制度を撤廢すべきを唱道した、然るに瑞士の當局者と全國民とは擧つて之に不賛成の意を表した。蓋し同國民は軍隊教育が、國民教育として最も必要なることを、自覺せるが爲めである。又一八七〇年の獨佛戰爭後、獨逸議會に於て陸軍費を節減せんとするの議起るや、政府當局者は「獨逸國民をして今日の如く規律節制ある國民たらしめたものは、全く軍隊教育の力ではない乎」と對へ、反對黨の闘士も之に對し、其志を翻すに至つた。成程獨逸は歐洲大戰に於ては、爲政者其劃策

誤つたが爲めに、其能く健闘したるに拘はらず、遂に戦敗の位置に立つの已むなきに至つた。併し其國民に規律節制ありて、將來尙ほ恐るべき國民たることは、何人も疑を存せざる處だ。兎に角我國民をして世界の競争場裡に立たしめんと欲せば、規律節制ありて協同動作を樂み、剛健なる體力と意志とを有する者たらしめざるべからず。瑞士國民が徵兵制度存置の必要を認め、獨逸國民が過重なる軍備存置の必要を認めたるは、軍隊教育の眞價を認めたからだ。又此自覺があつたからこそ、此成績を挙げ得たのであらう。我國民は我軍隊に對し何故斯の如く冷淡であらう？ 軍隊が國民教育として、未だ充分なる成績を挙げ得ざるも、亦其一因であらう。併し或は軍閥に對する政治的攻撃が思慮淺薄なる一部の國民をして、之を軍隊と混同せしめたのであるまい乎。軍隊は云ふ迄もなく、陛下の軍隊であると同時に、我國民の軍隊である。軍隊の成績が歸郷と共に消滅するの觀あるは、主として我國民が之に對して冷淡なるの致す處ではあるまい乎。國防は一部當籤者のみの責任ではない。老幼婦女に至るまで盡く其責任あることを忘れ

てはならぬ。

といふのは必ずしも軍隊や軍人を、物質的に好遇せよと云ふ意ではない。予は我全國民が軍隊教育に對し、理解せんことを要求するものである。此一般國民の理解は、青年をして喜んで軍隊教育を迎へ、一意之を體得せんと力むるに至らしめ。又少年をして之に倣はんとする傾向を招徠するに至るのだ。實に現代及び將來の青少年は、諸種の印刷物を通じて、早く社會を觸接し、其皮想の觀察に依りて、其父兄の意見と益々杆格するに到るは、蓋し自然の趨勢であつて、此憂ふべき缺陷に投合し、之が缺陷を補ふものは實に軍隊教育であつて、我一般國民が此點に着眼し、軍隊教育の眞價を理解するの日、選からざることを信するものであるが更に一日も早く其日の來らんことを翹望するものである。

附 録

歐米列強、國民軍事豫備教育實施の趨勢、

今や歐米列強の諸國民は、其後繼者たるべき青少年の精神並に體育上の發達に、大なる缺陷あることを發見し、之を癒せるには國防の精神を喚起し、軍事教育又は之に準じたる教育法を施すの必要を痛感して居る。少年斥候隊の如きは此趣旨の下に生れたるものであつて、己に今日に於ては世界的組織となつた。少年斥候隊に就ては聊か前章に概説したが、其教育の目的は規律を守り、服従の精神と協同の觀念とを養成せんとするにあつて、必ずしも軍事豫備教育を施すものではないと宣言はして居るが、併し此教育の目的とせる處のものは、自然に軍隊教育と一致し、其教育手段も亦軍隊教育に準じたものに過ぎぬ。我國に於ては遺憾ながら、其組織未だ見るべきものはないが、之に關する

書籍のみは散見するようだ。依て其細説は之を他に譲り、歐米に於ける諸學校軍事豫備教育の梗概を説くこととしよう。

第一米國

一、私立軍事學校

米國には中學校にして、軍事教育を其正科に加へて居るものが今や百數十に上つて居る。恰も我國に於ける幼年學校と士官學校豫科の教育とを合併したようなものだ。自由平等と民主主義を信條とせる米國には、不似合のことと考へられたから、十餘年前ではあつたが予は試みに其一、二校を參觀した。學校は都會を離れて廣き運動場を有し、歩兵用の武器装具は勿論、野砲數門、機關銃數挺、軍馬數十頭を有し、(此等は皆陸軍より貸與せられたるものなり)宛然我陸軍士官學校豫科に酷似して居る、生徒は奈れも活氣に充ち、其教練の眞面目さには驚歎を禁じ得なかつた。そして學生は總て寄宿舎に起居

し、士官候補生に準じたる制服を着用して居る。從て月謝も頗る高價にして、富豪の子弟にあらざれば入校も六か敷い。此等の學校の代表者として、毎年一名宛は陸軍士官學校に、無試験入學を許され成績優秀な者は豫備將校に任命せらるる。さりとして其生徒の大部分は、最初より陸軍出身を志願して居らない者が、其大部分を占めて居るのだ。

此等の學校が何故斯の如き、民主國にふさはしからざる教育法を採用して居る乎。案内者たりし教師の説明は斯うだ。軍隊に於ては上官と部下との懸隔甚しき爲め、部下は兎角面従腹背遂には教練を呪ふ者も出て来る。そして其勘忍袋の緒を斷るや、反動的反抗心をも生ずるの虞はあるが、我學校に於ては學生の人格を尊重し、軍紀の埒内に於て義務觀念を基礎とする自由を認め、其個性の發達を企圖して居るのである。で、軍事教育が學生の體育に資すること大なるは云ふ迄もなく、忍耐、規律、義務、服従等の觀念と習慣を養成するには、軍事教育は最も効果あり、此効果に就ては最早何人も疑を挾まぬ處である。殊に我米國青年共通の缺點は、兎角父母長上の命令を尊重せざる傾向が尠

くない。彼等をして將來國憲を重んずる紳士たらしむるには、軍事教育は最も好果ある教育であるからだ。」と云うて居つた。

二、大學に於ける軍事教育

米國の各大學及専門學校には、豫備役將校養成團の制度あり、學生中の希望者は其團員として、其希望する兵科に應じ軍事學及び其訓練を受くるのである。そして最初の二箇年は下士兵卒に應ずる軍事教育、並に將校に必要な若干の訓練を受け、次の二箇年に於ては初級將校に必要な軍事學、並に小部隊指揮の訓練を受け、兩課程共其終了期末に於ては、夏期休暇を利用し、野營を實施し更に其訓練と試験を實施せらるるのである。で、歩、騎、砲、工の各兵科に屬する武器裝具は勿論、現役將校を軍部より派遣せられ、其教育に従事して居る。予は嘗てコロネール大學に於て之を參觀し、其學生の眞面目さには喫驚せざるを得なかつた。聞く處に依ると過般の歐洲大戰に於て、此豫備將校の成績は頗る良好で、多年軍隊にあつた下士出身の將校よりも、却つて部下の信頼を

得たる處驚くべき成績を現はしたとのことだ。

三、公私立中學校及び同一程度の學校に於ける軍事教育

年齢十四歳以上の身體強健なる學生にして、一週三時間以上軍事教育及び訓練を受けんとする志願者、百名以上に達するときは、陸軍省に對し豫備將校養成團の組織を出願し、其認可を経て其希望に應じ歩兵、騎兵、又は砲兵等の養成團を組織し、二年以上其教育を實施するのである。

本教育の目的は、心身の鍛鍊並に義務心の涵養、規律、剛毅、協同動作の養成を主とし、下士卒に必要な學術並に軍隊指揮の基礎的訓練を施すにある。そして二箇年終了の後は、夏期休暇に於て野營演習に出場せしむ。尙ほ此終了者にして更に大學に於て、將校たるの教育を受くるか、又は大學に進まざるも更に野營演習に於て陸軍省の規定せし特別の實地教育を受けたる者に對しては、豫備將校を任命せられる。

兎に角一九二二年末の調査に依れば、此等の養成團を組織せる大、中學並に之と同等

程度の學校は、二百二十五校に上り、其部隊數は大學甲種學生二百三十七、團員五萬七千餘名、大、中學校に於ける乙種學生部隊數百五、其人員三萬八千五百餘名に達して居る。但し航空部に屬する學生は、航空學校に六週間召集し、選拔せる約三十名の者に對し、夫と操縦術、空中寫眞、觀測、地圖の製作等を教育するのだ。

四、在郷軍人及び一般市民の軍事教育

一九二〇年六月改正の國防法に依り、在郷中の准士官、下士卒、及び一般市民中の志願者に對し、豫備將校又は下士卒たる資格を得せしめんが爲め、夏期に於て六週間野營演習を實施し、現役將校、下士を以て教官、助教に宛て、志願者の往復旅費及び野營教育に要する兵器、裝具、被服其他一切の材料は之を官給せられ、其翌年より開始したのであるが、一九二二年度に於ては、志願者約二萬八千名の多數に上り、尙ほ年々増加するが目下經費の關係上、盡く其希望に應じ兼ねる盛況である。故に將來は毎年十萬人の教育を實施し得る如く、擴張せんとして居る。

此野營教育は赤白青の三組に區分し、赤組は十七乃至二十五歳の青年に對し、兵卒としての教育を施すを目的とし、基礎的軍事教育を施し、白組は豫備役下士を養成するを目的とし、赤組卒業者（十八歳乃至二十六歳）、歐洲大戰に参加せる兵卒、豫備役兵卒、諸學校に於て已に軍事教育を受けたる學生等を收容して居る。青組は十九歳乃至二十六歳の白組卒業者を收容し、豫備將校を養成するを目的として居る。

五、國民射撃術の獎勵

一九一六年の國防法に依り、陸軍省内に陸軍次官を長とせる全國々民射撃獎勵會を設置し、全國各射撃俱樂部及び國民射撃協會等の業務を統轄し十八名の委員は其業務を補助して居る。

全國各射撃俱樂部には、政府より現用銃二、屋内射撃用ウキンチエスター短銃二、野外及び屋内射撃用具一式、並に各會員に對し毎年小銃彈二百發、短銃彈約二百發を官給せらる。又會員にして小銃購入の希望ある者に對しては、一銃約三十九弗にて容易に拂

下を受くることが出来る。そして此會員にして陸軍射撃教範に示せる各射撃の規格に合格した者には、軍隊に於けると同様な射撃名譽徽章を陸軍省より授與せられて居る。

一九二二年の調査に依れば、民間に於ける此等射撃俱樂部は二千三百、會員十二萬人に上り、此外國民射撃協會に屬して居る者一萬一千名に上つて居る。

全國射撃大會は毎月米國中部オハイオ州ペリー陸軍野營地に於て舉行せられ、各州知事は州内射撃俱樂部中より、選手を選抜して大會に出場せしめ、そして其大會に於ける射撃の成績は、軍務局長が之を審査する。其選手の旅費並に滞在費は全部官給であつて、之に要する經費及び賞品費として、毎年約八萬弗を國庫より支出されて居る。

六、軍事通信教育

米國陸軍省は大正十一年十月より、在郷軍人並に一般國民の希望者に對して、軍事通信教授を始めた。其目的は云ふ迄もなく、在郷軍人の軍事能力を増進すると共に、在郷軍人にあらずとも、國家の有事に備へんとする篤志者の爲めに、其軍事智識を涵養せんとするものである。

本通信教授は希望者の素養の程度に依り、A、B、C、D、Eの五科に分ち、各兵科毎に其兵科専門の事項、並に一般戰術に關し基礎教育より始めて、逐次其程度を向上し、各科終了毎に試験を施行し、逐次上級の課程に進級せしめて居る。

第二 英國

大戰後財政緊縮の必要に迫られ、常備軍の縮小を餘儀なくせられたけれども、國民軍事豫備教育普及の爲めには、却つて其施設を擴張し、國民皆兵の實を擧げて居る、故に表面上英國の軍隊は縮小せられては居るが、其國防の實質に於ては却つて、其強味を加へたと云ふべきである。

一、豫備將校教育團

此教育團は米國と同様、中學校、專門學校、大學内に設置せらるるものであつて、既

に明治四十三年此制度を採用せられ、這般の大戦に於ては、本國より出身せる將校十數萬に上り、其成績は戦前に於ては多少危まれて居つたが、實際下級將校として十分の技倆を表はし實質に於て毫も憂慮するに足らないことを示した。そして各教育團は此實驗より得たる經驗と、政府の指導補助とに依り、益々其施設を擴張整備し、日に旺盛に赴きつつある。

嘗て下院議員ワード大佐は議會に於て、「實戰の經驗に依れば下士出身の將校は、老兵の指揮官としては、適當であるが、青年より編成せる部隊の指揮官としては、寧ろ豫備將校養成團出身の將校が適當であつた。此等の青年將校は軍隊に於ける經驗なきものなるに拘らず、能く部下の信頼を得、能く其指揮統御を誤らなかつたのは、畢竟本教育團の制度並に教育が、能く其當を得たことを證するものだ」と告白して居る。

大學及び諸學校に於て、生徒數三十名以上、將校一名以上の團員を得れば、各分團を組織することを認可せられるのである、そして大學に於ける分團は、歩兵、騎兵、砲兵、

工兵、輜重兵及び衛生團等の區分を有し、各々其兵科専門の學習と訓練とに従事するが、中學校及び其他の諸學校に於ける分團は、歩兵若くは工兵の教育を受けるのみである。本教育團の制定せられたる當時にありては、之を組織せる中學校及び専門學校百二十三校、大學十四校にして大戰勃發の當時に於ては、中學校及び専門學校百六十四校、大學二十三校に増加し、戦後は經費の膨脹を避くる爲め、新たに本團設立を希望する諸學校に制限を與へ、校數の増加を希望しないに拘らず、之を出願する諸學校頗る多い。で、今や大學に於ける分團員二千二百餘名、中學校及び専門學校の分團員三萬千二百餘名に上つて居る。

本教育分團を有する各學校に於ては、軍事教育委員會を組織し、其實行機關として隊長及び副官（副官は現役將校を充當す）を以て之に當らしむ。其教育に關しては參謀總長の監督を受け、又軍管司令官は管内の本教育分團に對し、諸種の便宜を講ずるけれども、其監督及び軍紀の維持等に關しては、全然學校當事者の權限に干渉せない。

參謀總長より示されたる教育規格は

- イ、射撃（教練射撃の爲め五十發。戦闘射撃の爲め五十發）
- ロ、教練（各個、小隊、中隊、大隊教練）
- ハ、野外演習及び戰術（行軍、及び行軍間の警戒、宿營及び宿營間の警戒、分隊、小隊、中隊戰鬥及び其指揮）

ニ、野營、毎年夏期休暇の最初の十日乃至十五日間に於て之を實施する。軍管區司令官は管内各分團を一地に集め、旅團を編成し、旅團長、大隊長、其他の部隊長並に軍醫は、之を現役將校中より任命し、其演習を實施す、又正規の軍隊と連合して連合演習、對抗演習等を実施することもある。

元來本團員は、各學校の學生中軍事趣味を有する志願者のみであるから、餘儀なく演習する者とは異り、極めて熱心であつて、自ら進んで各種の演習に従事するが爲めに、其發達著しきのみならず、軍紀の點に於ても遙かに現役下士卒の夫れに優つて居ること

は、何人も一致する處である。

之が經費の爲め、陸軍省より各教育分團に對し、年々補助費を支給する、（本年度支給額百三十五萬圓）そして大學に於ける各分團に對しては、年額一人平均四磅、又野營に方りては一人日額五志を補助せらる、中學校及び専門學校の各分團に對しては、野營用として年額一人平均一磅六志宛を補助せらる。又別に豫備將校を出したるときは、其員數に應じ各人平均九磅を賞與として其分團に支給せらるる規定である。

二、中學校及び専門學校豫科に於ける軍事教育。

本豫科は我國の高等小學と概ね同等の課程であつて、軍事教育としては射撃斥候等の課目を課し、生徒の尙武心を養成する傍ら、體育の向上、武士道的品性の涵養に努めて居る。

此種の學校總計二百十七校中、生徒の尙ほ幼少なるの故を以て、軍事教育を施行せな

の十六校である。そして射撃教育は空氣銃を以てし、通常二十米突乃至五十米突の短距離に於て施行せしむるものであつた、之を全生徒に實施せしめつつあるもの五十六校、又上級者の半數以上に實施せしめつつあるもの九十五校である。尙ほ射撃獎勵の爲め、倫敦に全國豫科射撃協會あり、毎年一回射撃大會を施行せられて居る。

斥候教育は他日其教育の基礎たらしめんが爲めに、斥候的方法に依り遊戯演習を行つて居る。詰り斥候演習を遊戯化したのだ。此教育は頗る少年生徒の趣味に適し、和樂の間其長の指揮下に活動する美風を涵養せんとするにある。

三、軍事教育を施す候補生團。

英國少年斥候隊に於ては、聊か前章に其梗概を陳べたが、茲に説かんとするものは、特に軍事教育を施すを主眼として編成されたものである。本團は通常中隊に編成せられ一中隊の人員は三十名乃至百三十名とし、四箇以上の中隊を以て大隊を編成して居る。本團は國防條例に依りて公認せられたるものであつて、陸軍省は其監督權を各州の協

會に委任し、其訓練に於ては軍管區司令官に委ねて居る。そして毎年軍管區司令官は現役佐官を派遣し、之を檢閲し、檢閲官は其結果を陸軍省に報告する。

本團の教育に要する諸經費は全然自營であつて、兵器、彈藥裝具等は州協會之を陸軍省より購入保管し、之を團員の使用に供して居るが、陸軍省は射撃場及び陸軍用地の使用に關しては特別の便宜を與へて居る。

本團教育の目的は少年をして規律ある生活と、義務心より發する服従心を涵養せんとすると同時に、初步の軍事教育を授けんとするものである。最近の大戦に於て此少年團を集成して、二箇の兵團を組織し、戦地に派遣し、戰場勤務を補助せしめ、英軍の爲めに貢獻する處尠くなかつた。現時に於て其中隊數は五百以上に上り、團員は七萬以上に達して居る。

第三 佛 國

佛國は既に歐洲大戰前より、國民體力の増進と軍事豫備教育の爲めには、全國民が擧つて深甚なる努力を拂つて居つたのであるが、大戰の爲め約二百萬の戦死者及び廢疾者を出したるのみならず、國費緊縮の必要に迫られ兵役年限の短縮を實施せざるべからざるが故に、更に軍事豫備教育を勵行するの必要を生じた次第である。

故に大正九年國民體育及び軍事豫備教育法案の修正案が議會に提出せらるるや、各政黨は其根本主義に於て、悉く熱心なる賛意を表し、全國民は之に對し大に歓迎した。(因に佛國は従來歩兵は二年兵役であつたが、戦前兵力の不足を補ふ爲三年兵役とし。戦後は十八箇月となし、更に一年兵役に改正せんとするの議あり。)本法案の要旨次の如し。

(イ) 女子は小學校及び高等女學校在學間、男子は學校に在學と否とに拘らず、滿六歳より兵役に服する迄は、凡ての學校及び地方團體に於て、個人の體力を増進することを強要して居る。

(ロ) 滿十六歳より入營迄の男子に對しては、軍事豫備教育を受くるの義務を要求し

諸學校學生の軍事教育に就ては、英米の諸國と概ね同一の制度を採用し、又學生以外の青年に對しては、官私設の講習所を設置し、其會場、演習場、射撃場、馬場の設置及び馬匹、兵器彈藥の購入費等は陸軍省より補助金を與へ、之が教育の監督は各軍團管區毎に軍事教育準備協會總監ありて、之を指導監督して居る。そして其要求せる課目は、體操、行軍、障礙物の通過、陸軍衛生學及び陸軍諸法規の概要、各種姿勢の射撃、救急法等であつて、此諸課目を終了し其卒業證書を有する者は、其特典として入營四箇月の後伍長に任せらるること。又入營に方り其卒業列次により、各自希望の部隊に入隊することを得ること。及び服役間規定以上の休暇を許さるること等である。又下士若くは豫備將校たるの資格を有する者と認められたる者に對しては、入隊後更に之に應ずる教育を授けて居る。

第四 伊國

伊國は十八箇月現役制度を採用して居るが、此短日月の軍事教育を以てしては到底所望の成績を擧ぐる能はざることを認め、國民の一般的體力増進と、青年の軍事豫備教育の必要を認め、一昨年之に關する法案を議會に提出した、其方法は満十六歳以下の青年に對しては、體力氣力を増進し國防の準備を容易にする程度に止め、其教育の實施は諸學校及び地方諸團體に委し、政府は經濟上並に實施上援助するに止まるも、満十六歳以上の青年に對しては、最下限二箇年の軍事豫備教育を要求し、其實施は認定したる諸團體に委任せるも、其計畫及び監督は陸軍省及び海軍省に就て指示して居る。

其實施は政府及び各府縣の援助の下に、各町村に會場及び演習場を設置し、職員の俸給は全部國費として、各府縣には縣委員會あり、陸軍省には中央委員會ありて之を監督して居る。そして此軍事豫備教育を良成績を以て完了した者に對しては、在營期限の六分の一を短縮することとした。

軍隊生活の解剖 終

大正十四年四月三日印刷
大正十四年五月八日發行

著者 赤松寛美
 發行者 香月鐵一
 發行所 東京市麹町區飯田町二丁目五十二番地
 財團法人 偕行社
 編纂部 (電話東京一七四〇〇番
 電話四谷五、八五〇〇番)
 東京市下谷區二長町壹番地
 印刷者 井上源之丞
 東京市下谷區二長町壹番地
 印刷所 凸版印刷株式會社

近刊廣告

元帥伯爵東郷海軍大將題字
教育總監部本部長渡邊陸軍中將校閱
陸軍歩兵大佐赤松寛美著

●現代及將來の戦争

クロー
洋装
四六
版

定價金壹圓 送料金拾錢

現代の戦争は如何なる變革を齎した乎、將來は如何に變化するものであらう乎と云ふ重大なる問題に對し、明快なる答解を與へたものである、云ふまでもなく本問題は國防方針策立の基礎であり、國民軍事教育の根本である其敘述に至りては極めて平易にして著者一流の快筆に依り壯絶なる場面を眼前に彷彿たらしめ興味津々一讀巻を終らざれば已まざらしむ

發行所

東京九段

財團法人

偕行社編纂部

振替口座東京一七四〇〇番

318
523

終